

沼津高専だより

第97号

平成22年 7月 9日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL <055> 921-2700

国立沼津工業高等専門学校 平成22年度 入学式



題字：柳 下 福 藏 学校長

☆沼津高専 ホームページアドレス (URL) <http://www.numazu-ct.ac.jp/>

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	3
☆新年度にあたって（年度方針等）	
新年度にあたってー産業構造の変化に積極的に対応ー	校長 柳下 福 藏……4
新年度を迎えて	副校長（教務主事）大 島 茂……5
新年度にあたって	校長補佐（学生主事）蓮 實 文 彦……5
平成22年度をむかえて	校長補佐（寮務主事）遠 藤 良 樹……6
平成22年度を迎えて	校長補佐（専攻科長）芳 野 恭 士……7
国際交流・留学生・FD	校長補佐（特定業務担当）大久保清美……7
機械工学科の近況と今年度の取り組み	機械工学科長 小 林 隆 志……8
平成22年度の電気電子工学科	電気電子工学科長 望 月 孔 二……9
新たな飛躍の年に	電子制御工学科長 舟 田 敏 雄……9
平成22年度を迎えて	制御情報工学科長 長 谷 賢 治……10
物質工学科 平成22年度にあたって	物質工学科長 押 川 達 夫……11
教養科について	教養科長 西 垣 誠 一……12
☆人事異動について	
平成22年度 人事異動	……13
平成22年度 学級担任	……14
平成22年度 校務分掌	……15
平成22年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	……16
☆着任挨拶	
一流のエンジニアを目指して	機械工学科 山 中 仁……16
読書と食事	電気電子工学科 草 間 裕 介……16
高専生活のススメ	電子制御工学科 青 木 悠 祐……17
☆新入生から	
声	機械工学科1年 村 松 星 彦……18
高専生活の始まり	電気電子工学科1年 東 條 豊……19
学生になって	物質工学科1年 寺 前 香 里……19
☆卒業生から	
コンテスト受賞から高専時代を振り返って	機械工学科41期 津 島 亮……20
一生、勉強だ！	制御情報工学科12期 長 島 徹……21
在校生の皆さんへ	物質工学科39期 河 合 佑 加……22
☆留学生から	
よろしくをお願いします	電気電子工学科3年 N ジェ ホン……22
「日本に行きたい」	物質工学科3年 タオヒンマニ ウィエンサイ……23
☆私の高専時代	
私の高専時代と沼津高専の歴史	校長 柳下 福 藏……24
私の高専時代の寮	校長補佐（寮務主事）遠 藤 良 樹……25
☆寮生会活動について	
沼津高専寮生会	電子制御工学科5年 寮長 田 中 弥……26
☆学内プロコンについて	
沼津高専におけるプロコンへの取り組み	総合情報センター 中 道 義 之……27
☆New MIRS 競技会の報告	
New MIRS発進！	電子制御工学科 江 上 親 宏……28
☆教育後援会から	
ご挨拶	教育後援会会長（C5） 芹 澤 啓 行……29
☆入学に際して保護者から	
祝入学	新入生保護者（M1） 五 味 茂 美……29
高専入学に当たり願うこと	新入生保護者（E1） 東 條 達 也……30
期待していること	新入生保護者（C1） 伊 藤 和 正……30
☆事務部から	
平成22年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……31
平成22年度（8月～3月）行事予定表	……32

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカリキュライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- ・ 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- ・ 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- ・ 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- ・ 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

新年度にあたって（年度方針等）



新年度にあたって —産業構造の変化に 積極的に対応—

学 校 長
柳 下 福 藏

全国の国立高専が平成16年に独立行政法人化して第1期の5年間が過ぎ、第2期の2年目に入りました。高専機構が提示した第2期中期目標は、中央教育審議会が提示した「高等専門学校教育の充実について」の下記4項目を具体的に進める指針となっています。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取組み、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの1つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

沼津高専は高専機構の第2期中期目標に則って策定した昨年度の年度計画を自己評価した結果に基づいて平成22年度の年度計画を策定し、運営諮問会議の諮問を受ける準備を進めています。詳細は本校ホームページに公開しますのでご覧ください。

●それぞれの高等専門学校が自主的・自律的改革に不断に取組み、社会経済環境の変化に積極的に対応する必要性は誰もが認めるところであります。本校としては、電気自動車の普及に代表されるように、環境、エコ、福祉、医療を重視する産業構造の急激な変化に積極的に対応する改革を進めるために、全学で検討する組織を立ち上げ早期にその方向性をまとめる予定です。

産業界や地域社会との連携に関しては、地域共同テクノセンターを核として地域企業との共同研究・受託研究・技術相談などを引続き活発に進めていき、企業技術者（OBを含む）に本校学生のものづくり教育を担当していただく「企業技術者等活用プログラム」（共同教育）は一層充実した内容にブラッシュアップして本年度も継続してまいります。

沼津高専が静岡県東部地域再生計画と同調し、東海大学開発工学部と連携して平成21年度文部科学省の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に採択

された「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は、ファルマバレーセンターをはじめとする関係各位のご支援により計画通り順調にスタートしました。

この事業は、文部科学省の補助金により運営される5年間の継続事業であり、沼津高専教員、東海大学開発工学部医用生体工学科教員、ファルマバレーセンター職員等が連携協力して県東部15市町の中小企業技術者に医用機器の開発製造技術・薬事法取得の知識等を教育する2年間の養成プログラムにより構成されており、5年後の平成25年に医用機器開発の中核となるエンジニアを32名育成する計画となっています。第1期受講生10名、第2期受講生10名に本校の専攻科生1名が加わり、隔週土曜日に開講されている講義に終日熱心に取組む姿に明るい近未来が垣間見られます。

文部科学省の支援終了後も本校が同エンジニアを定常的に養成できるように、専攻科に「医用機器開発エンジニア養成コース」の設置に向けて調査研究を始めることにしました。

沼津市が平成24年に門池公園に建設する「門池地区センター」の電力を門池の流水を利用する水力発電で供給して「エコの町・沼津」を全国的に広報したい、については、沼津高専の協力を是非ともお願いしたいという栗原沼津市長の要望と、本校が4年前から始めている門池中学生対象の公開講座「門池の水質調査」を「水質改善」に発展させたいという門池地区連合自治会の要望を合体して「高専と地域が連携したエコタウンづくりー門池の水質改善と水力発電を通した環境教育ー」のプロジェクトに、全学科の教員が参加して学生のエンジニアリングデザイン教育の一環として実施することを計画しています。

国際交流に関しては、従来、夏季休業中に実施している語学研修・異文化体験のショートプログラムに加えて、ドイツの専科大学の学生と本校専攻科生が互いに相手の国でインターンシップを体験して国際性を身に付けられるプログラムを開設するために、ドイツの専科大学と国際学術交流協定の締結に向けてドイツ語の大久保清美先生にご尽力いただくことになりました。

ともあれ、沼津高専は地域との連携を強化しつつ、産業構造の変化に積極的に対応するための改革を不断に進め、人柄のよい優秀な学生の育成はもとより、県東部地域に唯一の工科系国立高等教育機関の使命を着実に果たしていく所存です。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして新年度のごあいさつといたします。



新年度を迎えて

副校長（教務主事）

大 島 茂

教務主事として2年目を迎えました。どうぞよろしくお願いいたします。今年度特に力を注ぎたいと考えていることを4つ述べさせていただきます。

まずは、留年・退学者の数を減らすことです。大変残念なことに、ここ数年、留年・退学者ともに増えています。低学年生では、適切な勉強方法が身につかないことが原因で成績不振に陥り、勉学意欲を失う学生が増えています。また、提出物をきちんと提出できず、レポート等の未提出が重なり、どうにもならない状態となって諦めてしまうというケースも見られます。

中学時代に身についた、塾などで教えられるままについて行くだけという他人を頼りにした勉強方法では、高専の学習には通用しません。問題の解き方を自分で見出し、自分の力で展開していくことができる力を身につけなければなりません。そのためには、たくさん問題を時間をかけて自分の力で解くという勉強方法が不可欠です。昨年度は、1年生で数学の力が心配される学生達に適切な勉強方法を身につけさせることを目的に、教育経験豊かな非常勤講師による補習授業を実施し効果をあげました。今年度も同様の補習は実施し、さらに学習支援体制を充実して行く予定です。

企業技術者の協力を得た共同教育として「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」を2年間実施してきました。高専OBを含む企業技術者に来校していただき、企業での体験談等を講義してもらう授業を各学年で実施しました。高専で学んでいる知識や技術が産業現場で如何に使われるのか、特許の知識や経営的視点からのものの考え方など、多くのことを学ぶと同時に、社会人として、技術者としての自分の将来を思い描かせるためにも、

非常に効果的でした。そのようなキャリア教育的側面を充実し今年度も実施する予定です。

国際性とコミュニケーション能力の必要性は、今や技術者にとって当たり前のこととなっています。昨年度までの3年間、英語科と専門学科の教員で構成する英語教育改善ワーキンググループで検討を続け、1つの具体策としてTOEIC IPテストを全学生に受験させることを始めました。昨年度は3、4年生の全学生に受験させました。TOEICテストは、産業界で英語能力を評価するのに最も広く採用されている英語能力試験です。自分自身の英語力のレベルを客観的に把握でき、また、より高得点を目指すことで勉強する励みにもなります。学校で受験するTOEIC IPテスト以外に公開テストを自主的に受験する学生もずいぶん増えてきました。1、2年生には従来ACEという英語統一試験を受験させてきましたが、今年度からはTOEIC Bridgeテストを受験させることに変更しました。1年から高学年まで一貫性のある統一テストで英語力の進展をより客観的に把握できます。英語力の向上と併せて国際性の涵養という面で、英語を母国語とする外国人非常勤講師を採用し、外国人と会話する機会を少しでも増やすことも進めています。

少子化や理科離れ、将来の進むべき道の決定を先送りする風潮などにより、本校の入学志願者数もここ数年減少傾向にあります。何とか改善を図るため、1日体験入学、中学校訪問、進学説明会、公開講座、出前授業など、多くの広報活動を実施し努力しています。昨年度は、1日体験入学と高専祭で浜松地区に送迎バスを出し、高専祭ではミニ体験授業を新企画として実施しました。入学志願者を多く集め、高い志願倍率を維持することは、優秀なやる気のある学生達が多く入学することにつながり、学内が活発になり、より良い学習環境となることで在学生達にも得るところが大きいわけです。学校の広報活動に学生達の協力を仰ぐところが多々ありますが、ご理解下さるようお願いいたします。また保護者の皆様には、知人やご友人などに沼津高専の良いところをPRしていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



新年度にあたって

校長補佐（学生主事）

蓮 實 文 彦

本年度、佐藤 誠前学生主事より校務を引き継ぐこととなりました物質工学科の蓮實文彦です。私以外に4名の主事補と6名の学生委員、それに学生課事務職員との連携で学生関連の業務に臨んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度の学生関連業務の指導目的を「学生が落ち着いた

て勉学し積極的に課外活動できる環境の提供」といたしました。この目的を達成するため、以下の3つの項目を目標といたしました。

- ・安全を重視した学生支援
- ・学生のモラル向上
- ・総合学生支援センターの設置・運営

今回は、目標とさせて頂きました2番目と3番目の設定根拠について述べさせていただきます。

平成4年、授業内容、時間の削減に始まる「ゆとり教育」により、様々な改革が実施されてきました。その中で育ってきた若者が平成20年より大学を卒業し社会人として巣立っています。本校では、この教育を受けた学生が今年で10期生を迎えています。その中で、年々顕著に

なってきたと感じることが、学生の就労意識の希薄化または欠如です。この感想は、私1人ではなく、就職試験を行う企業の採用担当役員の多くが語っていることです。就労意識の希薄化は、同時に、勉学意欲の低下、学力の低下を意味します。一昨年、私が担当している1年生の授業に臨んだ折です。始業の挨拶後、多くの学生に活気がなく、無表情であることに驚きました。そのような雰囲気です。授業が成り立つはずがありません。当然、一喝しました。この傾向は、昨年、さらに顕著でした。私の沼津高専での27年間の教員生活でこのような現象は初めてでした。教員として危機感さえ覚えました。これら一連の若者に表れている現象がすべてゆとり教育にあるとは思えませんが、早急に見直さなければならない教育方針であることを強く感じた瞬間でした。

見直しの際に大切となることは、「自分の人生をどう描くか」です。この問いへの回答は簡単に得られるものではありません。学校のみならず、保護者の方々とお子様との普段の会話や新聞、読書の中から見出されるので

はないでしょうか。日本を創ってきた先人たちの偉業を学び、現在の地球が抱えている問題を直視する必要があるものと思います。

どう人生を描くかに加えて、もうひとつ大切なことは、「感謝」ではないかと思います。命のあること、学べる環境にあること、学べる学校があること、そして、それを支えてくれる多くの人々がいること。さらには、これまで、私たちの国を支えて下さった先人たちがいること。

今年度、本校では、学生諸君に本を読んでもらえる環境作りを目指します。まずは、朝の短時間でも一斉に読書の時間（朝読書）を設けます。加えて、昨年度から教務担当教員が中心となってすすめているキャリア教育を学生担当としても取り組みます。これらを通し、何故学ばなければならないか、どのような人生を送りたいのかをつかみ取ってもらえる学生支援を行って行きます。その具体策が本年度の目標です。

今年度も、保護者の方々のご理解とご支援とをお願いいたします。



平成22年度をむかえて

校長補佐（寮務主事）
遠藤 良樹

今年度大久保清美前主事の後、寮務主事を併任いたします教養科（数学）の遠藤良樹です。前主事のもと寮務主事補、副主事を務めてまいりましたが、このような大役はもちろん初めてのことで、責任の重さに身が引き締まります。微力ながら皆様のご協力、ご理解を得て務めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

今年度寮生558名（男子489名、女子69名）でスタートしました。内訳は第1学年213（26）名、第2学年163（23）名、第3学年108（13）名、第4学年44（4）名、第5学年30（3）名、この中にはアジアからの留学生が7名含まれています（括弧内は女子人数で内数）。今年度より遠方の上級生が寮に多く残れるように1、2年全寮制をさらに弾力的に運用しました。具体的には近隣に自宅がある第2学年で寮生会の役職に就いていない学生は原則自宅通学というようにいたしました。ご理解、ご協力をお願いいたします。

寮務関係教員は総勢15名です。主事1名、寮監1名、主事補3名、委員10名で寮運営にあたります。寮監は前年度同様牧野先生（教養）で、3年目になります。細部に渡り寮運営に精通され、主事1年目のわたしを助けて頂いております。主事補は永禮先生（機械）、西村先生（電気電子）、渡邊先生（教養）にお願いしました。委員の先生方も含め、今年度も棟顧問を務めていただき寮生指導を行います。棟顧問制度（各棟担当の教員を2名ず

つ割り振る）も今年度継続して行っております。

寮務係は佐野係長1名が常勤で他に5名の補助の職員が学生の対応に親身になってあたっております。

寮生会は今年度もすばらしい働きをみせています。わたしは寮務に主事補や副主事として延べ20年ほど携わっていますが、主事になりますとそれまで見る事がなかった裏舞台まですべて知ることができます。それは想像を超える寮生会の働きでした。彼らにもわたしは助けられています。その寮生会の3役を紹介いたします。寮長は田中弥君（D5）、副寮長は伊藤康治君（M4）、小俣克之君（D4）の2人です。田中君は昨年度副寮長で今年度寮長に選出されました。伊藤君、小俣君と3人で寮生会を牽引してくれています。他に本部役員23名、計26名の意欲と能力がある学生が今年の寮の中核を形成しております。

次に活動報告を簡単に致します。

4月：入寮式、開寮式、寮生総会、親睦会、防災訓練

5月：寮祭前夜祭、寮祭

この間に、朝礼2回、木曜会（教員と寮生会との合同会議）を3回行いました。入寮式の日はいくの天候でしたが、寮生会の働きにより新入生の荷物搬入も無事終了しました。親睦会も雨で当初予定していた翌日に行われましたが、こちらも無事楽しく終了しました。防災訓練は地震を想定したもので、注意情報、予知情報が発せられたという想定で訓練を行いました。そして寮最大の行事、寮祭も今年は天候に恵まれ柳下校長をはじめ、多くの保護者の皆様、教職員、卒業生、近隣にお住まいの方々の来場を得まして盛況のうちに終了しました。お越し下さった方々にお礼申し上げます。これで寮の行事は一段落し、寮生は前期中間試験に向け勉学に励む体制を整えております。（このお知らせがお手元に届くころは

試験も終わっておりますが)

寮と地域連携の一環として昨年度から始まりました長泉北中学校学習支援は、引き続き今年度も実施する予定です。これは本校学生（おもに寮生）が長泉北中の放課後学習のお手伝いを1時間ほど行うものです。現在希望

者を募集中で、6月11日からスタートします。寮で行っているマテカ（上級生が下級生の勉強の面倒を見る）とともにこれからも続けていくことができたと思います。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



平成22年度を迎えて

校長補佐（専攻科長）
芳野 恭 士

平成18年度より専攻科長を務めている芳野です。今年度もよろしくお願いいたします。

本校専攻科は平成8年度に設置されましたので、今年度で15年目になります。4月に新入生33名を迎えて、昨年度と同様に1、2年生を合わせて65名の学生が在籍しています。専攻科の担当教員は67名で、手厚い指導による少人数教育を実践しています。

専攻科では、本科で身に付けたそれぞれの専門分野の知識や技術により一層の磨きをかけ、大学評価・学位授与機構による機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学といった専門分野ごとに行われる試験を受けて、学士（工学）を取得することになります。従って、専攻科の修了時には大学院への入学が可能ですし、就職も大学卒業と同等に扱われます。

一方、専攻科は本科4、5年の教育課程とともに「総合システム工学」教育プログラムを構成しており、本科・専攻科での専門分野の教育を基礎に、現代の産業ニーズに合った境界領域にも目を向けることのできる技術者を

育成することを目指し、平成16年度より日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。JABEE認定の教育プログラムを修了した者は、本校の専攻科修了生を含め、国家資格である技術士の一次試験が免除されます。また、工学倫理やインターンシップを必修科目とし、より高い倫理観を身に付けた技術者の育成にも努めています。今後も、これらの特徴ある教育課程をもとに、しっかりした基礎能力を身に付けた視野の広い技術者の育成のための工夫を行っていきたいと考えています。

専攻科生の進路については、昨年度は、33名の学生が修了し、そのうちの24名が就職、9名が進学を果たしています。世界的な経済不況が続く中、企業の求人状況は決してよいとはいえませんが、今年度も2年生の約3／4に当たる学生が就職を希望しており、積極的に就職活動を行っています。専攻科も全国で見ますと設置されて17年目に入り、その知名度が徐々に高まってきたためか、専攻科生を対象とした推薦募集も増えてきています。一方、大学院による専攻科生の受け入れ状況は、高専出身者の高い能力が定評を受けており、例年大変に活発です。毎年、数校の大学院の先生方が本校に説明にお見えになります。

本校専攻科では今後とも、学生や社会にとって一層魅力のある教育課程を提供することを目指して努力して参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



国際交流・留学生・FD

校長補佐（特定業務担当）
大久保 清 美

今年度から新設された特定業務担当校長補佐を早速拝命し、大変光栄に思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

さて特定業務の内容は主に、国際交流の推進、留学生の指導、教員の能力向上を図るための「教員FD（Faculty Development）研修会」の企画立案・実施等です。今年度はさらに、本校が平成22年度高専新任教員研修会の世話校に当たっていますので、その運営のお手伝いもさせていただきます。

国際交流については主に2つの仕事があります。1つは、大島副校長が従来手がけてこられたMSOE語学研

修を引き継ぎ、本校学生を夏の短期語学研修に派遣することです。今年度は1年生1名、2年生3名、3年生1名、4年生2名、合計7名の学生が、8月8日（日）から23日（月）の間、英国ロンドン郊外のイーストボーンでホームステイをしながら英語学校に通い、同時にさまざまな異文化体験をする予定です。

国際交流の仕事の2つ目は、「ドイツの専門大学との学術交流を軸とした国際性豊かな人材の養成ードイツ語教員による海外インターンシップ・プログラムの開発ー」との事業名で、高専機構本部が募集する「平成22年度高専改革推進経費プログラム」にすでに申請済みですが、ドイツの専門大学と本校との間で学術交流協定を結び、交換留学生に海外インターンシップの機会を提供するなど、学生や教員の海外交流を促進することです。今年度中に交流協定が締結できるよう努力したいと考えています。

在籍するアジアからの留学生については例年どおり、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を実施する

とともに、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する予定です。ところで、中曽根内閣が立てた留学生10万人計画が達成された今、次なる政府の目標は、福田内閣の立てた留学生30万人計画です。つまり、本校でも留学生を現在の3倍に増やすことが求められているわけです。これには私費留学生の問題など、そう簡単には行かない問題が多く含まれていますが、とにかくにも留学生用寄宿舎の設置のための予算要求は行っているところです。

教員FD研修会については、その実施が高専機構の第2期中期目標・中期計画に明記されているところであり、本校においてもそれに沿う形で年4回実施する予定です。5月の第1回目は「低学年生（一般科目）の教育方法」、

7月の第2回目は「クラス経営・生活指導（担任の教育力向上策）」、10月の第3回目は「キャリア教育」、12月の第4回目は「メンタルヘルス」をテーマに行う予定です。毎回、外部講師に基調講演をお願いし、その後パネルディスカッションを行う、シンポジウム形式で行いたいと考えています。パネリストには外部講師に加え、テーマ毎に適切な本校教員を選ぶ予定です。この研修会が言い放し・聞き放しに終わらず、実りのあるものになるようフィードバックを考えることも私の仕事と思っています。

以上、初めての試みも多く、どれほどの成果が出せるか未知数ですが、与えられた職責を十分果たせるよう、精一杯がんばりたいと思っています。



機械工学科の近況と 今年度の取組み

機械工学科長

小林 隆 志

2008年秋の金融危機に端を発した世界的な景気後退は底を打ち、日本経済にも回復の兆しが見えてきたといわれていますが、まだまだ本来の活気を取り戻すには至っておりません。このような状況の中で、われわれ教員に課された課題は、将来の日本の製造業を支える優秀な技術者の養成であることは言うまでもありません。今年度2年目の学科長を務めさせていただきますが、機械工学科教員一致団結して教育にあたる所存ですので、保護者の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

機械工学科の近況をご報告いたします。3月には機械工学科卒業生41名（就職26名、進学15名）・専攻科修了生3名（就職3名）が大きな期待を胸に旅立っていきました。本科生は5年間、専攻科生は7年間の沼津高専での勉学を経て、心身ともにたくましくなったことを感じさせてくれました。将来の日本経済を支えてくれるものと確信しています。

4月には本科入学生40名、3年次編入生2名、4年次編入生2名、専攻科入学生7名を迎えました。4月15、16日に行われた恒例の新入生オリエンテーション（御殿場）では、季節外れの雪が降り、雪化粧した桜の花が見られました。新入生にとっては印象深い研修になったことと思います。新入生は既に学校にも慣れて、元気に学校生活を送っています。今年度は次の担任（括弧内は副担任）が学生の支援にあたっています。M1:坂本（宮内）、M2:勝山（永禮）、M3:西田、M4:三谷、M5:手塚。全員経験豊かな教育熱心な教員です。ご心配の点がありましたら遠慮なくご相談下さい。

昨年度は多数の留年・退学者を出す結果となってしま

いました。希望に胸をふくらませて本校に入学してきた学生が留年したり、志半ばで退学することは残念でなりません。留年・退学の理由の1つに、課題の提出がきちんとできなかったことがあります。高専教育は1つひとつの課題提出の積み重ねにより成り立っています。未提出課題が重なると、取り返しがつきません。卒業まで長い道のりですが、まずは目の一つひとつのことを疎かにせず、確実にこなすことが大切です。一つひとつのことをこなすことで、将来社会で活躍できる実力がつきまします。今年度は留年・退学者を出さないように教員一同一層努力する所存です。

今年度の5年生46名の進路状況は、就職希望30名、進学希望16名（大学編入学第1志望12名、専攻科第1志望4名）です。就職希望者30名のうち、現時点（5月23日）で内々定（実質的な内定）を受けている者は、昨年同期の内々定者数とほぼ同じ14名です。求人をお願いしている会社数は昨年より20社ほど少ないものの約330社であり、厳しい経済環境の中でも機械工学科学生に対しては企業からの大きな期待があります。専攻科生については3名の就職希望者のうち内定者は現時点で2名という状況です。就職状況は昨年に続き厳しい状況ですが、最終的に例年通り全員が内定を得られるように教員全員で協力して支援してまいります。

機械工学科には、4月に准教授山中仁教員を迎えました。山中教員は三菱重工業で印刷機の設計に携わってきた方で、専門は機構学です。工学教育にも熱心で、2008年度には日本機械学会の教育賞を受賞しています。技術士（機械部門）の資格を持ち、これまでの企業経験を生かして、これまで手薄であった機構学・CAD教育の分野で力を発揮してくれるものと期待しています。永禮教員はこれまでの教育実績から講師に昇任しました。今年度は教員11名で学生の教育・指導にあたります。

設備面では、平成21年度に流体工学実験装置を更新し、実習工場でもレーザー加工機、ワイヤーカット放電加工機などの新鋭機を導入するなど、教育環境の改善が実現できました。現在、機械実習工場を新しいものづくり教

育に対応できるようなセンターに衣替えする計画が検討されています。施設・設備面のみならず、産業界における技術の進展に即応したカリキュラムの見直しも行っています。



平成22年度の 電気電子工学科

電気電子工学科長
望 月 孔 二

前年度に引き続いて学科長を務めさせて頂いている望月から、今年度の本学科についてお伝えさせていただきます。

この3月には、電気電子工学科から就職20名と進学24名の計44名が卒業して行きました。それぞれの道で大きく羽ばたくことを願っています。また、講師の大澤先生が教員交流制度により、豊田高専に転出しました。彼の地で異文化の体験が終わる2年後には、沼津高専で本学科の更なる発展の力になってくれるものと思います。

一方、この4月には1年生42名と、3年次への留学生1名が本学科の学生になりました。また、前述の交流制度を利用して、香川高専から講師の草間先生を迎えることができました。沼津高専での体験が、それぞれの方々の人生を高めるための縁になってくれることを願っています。

この文章を執筆している5月末に新入生は、高専で初めての中間試験にむけた勉強に取り組み始める頃だと思います。そして、この高専だよりが保護者の方々のお手元に届くころには試験結果が出るでしょう。テストをすればクラス順位も付くことになります。誰かがトップになり、別の誰かが最下位になります。しかし、クラス順位など一喜一憂せず、自分自身の実力を上げることに集中してもらいたと思います。高専教育の特徴の1つは、過度な受験勉強をせず、実際に役立つ基礎的なことを実験を踏まえながらじっくりと学ぶことができる点です。その結果として、就職率は100%ですし、高専から専攻科や大学を目指す編入学試験も、授業がしっかり理解できていれば慌てることはありません。勉強方法は人それぞれ適したやり方があると思いますが、どんなやり方にしても、「自分で勉強する時間」をきちんと確保し

最後に、学生の皆さん、将来社会で活躍する自分の姿を想像してください。そして、その実現に向かって努力してください。夢は叶います。保護者の皆さんとともに、われわれ教員も応援しています。

て下さい。

電気電子工学科のカリキュラムには、「回路」というキーワードで示される講義が5年間にわたって17単位も実施されるという特徴があります。カリキュラムの中に含まれる科目はどれも必要性がある大切なものですが、単位数が多い科目は極めて重要です。回路を「得意科目」にすることができれば、電気電子工学科の学びは素晴らしく楽しいものになるでしょう。

もしも授業内容で分からない所があったら、そのままにせずにきちんと理解して下さい。友人や先輩に聞いても良いでしょうし、オフィスアワーを利用して教員に聞くこともできます。電気電子工学科では、低学年の基礎科目としての回路教育は特に気にかけていて、電気電子工学実験の導入教育の中でも、回路を学ぶ時間を設けています。

5年生の今年の進路の状況は、就職希望が12名、進学希望が21名です。就職については内々定が開始しています。その一方で、志望した企業から内々定をもらえなかったケースもあります。高専の就職は高校や大学に比べて恵まれてはいるのですが、「どんな会社にも必ず入社できる」というわけではありません。就職を確実にするには、日ごろからまさに本校の教育理念である「人柄の良い優秀な技術者」を目指し、自分を磨きつつ勉強に励むことです。

進学の試験は6月頃からです。先輩たちの中には、4年次の成績と比べたらびっくりするような有名な大学に合格する場合があります。そういった学生は、5年次の6月の定期試験でも素晴らしい成績だったりますものです。つまり、受験前の追い込みで実力をつければ、難関突破も可能になります。頑張ってください。

以上、今回は授業に関係することを中心に記させていただきました。私たち電気電子工学科スタッフ一同は、社会で活躍できる人を育てたいと考えております。よろしく願いいたします。保護者の皆様方にも、お問い合わせやご指導をよろしくお願いいたします。



新たな飛躍の年に

電子制御工学科長
舟 田 敏 雄

平成22年度も電子制御工学科長を務めさせていただく

ことになりました。よろしくお願い申し上げます。

昨年来の学科内教員の世代交代に伴い、多数の実績を上げられた大庭勝久講師が准教授に昇任され、新たに青木悠祐助教（ロボット工学・生体医工学専攻）を迎えました。また、大原順一准教授が、本校を退職され、母校の水産大学校海洋機械工学科に移られました。それに伴い、既に研究教育実績のある江上親宏助教が講師に昇任され、さらに、森井宜治特任教授が再任されて、新年度

からの専攻科研究・卒業研究を始めとする教育体制に本学科として万全を期すことができました。

新年度にD 1に42名を迎え、クラスの構成は、D 2 42名、D 3 43名、D 4 46名、D 5 38名です。新D 5は、就職希望者は16名、進学希望者は22名で、就職希望者と専攻科単願志望者の三者面談は3/16から始まり4/4に終了しました。就職活動は新年度早々に始まり、現在（5月半ばの時点）までに5名の内々定を頂いています。求人約280社（昨年度は約330社）からありますが、依然厳しい現状と受け止められ、早目の就職活動が望まれます。

また、大学編入学等の進学希望者の三者面談が4/20～5/17に行われました。目下、専攻科の入学試験に向け、各卒業研究ごとに「専攻科自己申告書」作成の指導支援が進められており、学生諸君が希望する進路目標を達成できることを願っています。

今年度は学科の年度目標として、前年度に続き、次の6点を挙げています：

1. 留年、退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う
2. 学生確保対策(電子制御工学科の魅力を発信する)
3. 学科の将来計画と次期PBLカリキュラムの検討
4. 地域産業との連携
5. 工作機器の安全対策
6. 学生のモラル向上

「留年、退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う」ためには、先ず「毎日登校し、授業をしっかり受け、宿題・課題に取り組む、学習目標を達成する」ことが必要で、さらに「毎日8時間の勤務を…」という将来の仕事のペースに繋がっていますので、「きちんと訓練を受けて、信頼できる（仕事を任せられる）技術者の育成」が技術者教育の起点になります。これは個々の学生に効果的に成長できる支援を行うことを意味しており、個々の到達状況や特性に適した個別教育が要ります。確かに、クラスの成績の二極化やゆとり教育の問題は、平均点数等の間尺には合いません。しかし、一

定の基準を設けながらも、個別教育の視点から40人40様の課程があり、個々の成長を保証する途があると思われます。従来の高等教育では「個別教育」は大学院の課程では行われていましたが、本学科の場合卒業研究や専攻科研究の指導を通じて行われて来た実績があります。学科として科目ごとに最低限修得しなければならない事項をより明確にしつつ、学生諸君にはさらに多くの努力と学習教育目標の達成を求めています。その基礎学力アップの施策と専門教育の体系化が、順次、進められています。また、学習意欲の向上のために、昨年度にも増して低学年のキャリア教育を推進する方向で、工学技術セミナーの内容充実を図っています。

「学生のモラル向上」では、クラスでの集団生活としてのマナー、他人への思いやり、相手を理解し尊重する気持ち等を育てることを重視しています。授業中の学習姿勢・態度や学習成果をまとめること等の学習指導、低学年では服装・ゲーム持ち込み禁止等の生活指導目標が設定されており、これらの遵守が求められます。さらに「一社員の言動が、企業イメージの低下に繋がる」ことがありますので、高い社会的モラルは学校教育における必修課題です。

本学科では研究成果として、国内・国際会議学会発表を行い、地域の文化活動へも参加して、論文も執筆投稿しています。それらの成果を分かり易くHPなどで紹介したいと思います。

学生諸君が1年から5年まで、どれだけ真面目に努力を積み重ねるか」が決定的に重要であることを強調しておきたいと思います。15才から20才までの最も多感な成長期に質の高い教育を受けることは、学生にとって一生の財産であると考えています。そのために、私達は一層努力するつもりでございます。

今後とも、保護者の方々、学生諸君、私達教員の三者が協調して信頼関係を保ちつつ、学生諸君の将来を切り拓いて行きたいと思っております。保護者各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



平成22年度を迎えて

制御情報工学科長
長 谷 賢 治

風薫る五月、皆様にはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。キャンパスは今、新入生を迎え、活気に満ちており、生命の「成長力」を1番感じる時です。さて、この紙面をお借りして平成22年度制御情報工学科の組織編成、運営方針等の紹介ならびに学生諸君への助言などを記してみたいと思います。

まず、学級担任の紹介から。低学年の学級担任は学生指導経験が豊富な教養科教員がその任につきますが、その補佐役として専門学科の教員もつきます。第1学年は相良（マシン設計のプロ）、第2学年は鈴木茂樹（信号処理）が担当します。第3学年の担任は芹澤（電磁波工学）、第4学年は大久保（光情報工学）、そして第5学年は宮下（数理神経科学）がそれぞれ担当します。また、就職指導は吉野（ロボット工学）です。その他、大島（副校長、水圧・油圧工学）、藤尾（地域共同テクノセンター長、CAD/CAM）、鈴木康人（専攻科担当、情報論理）、松本（数値流体力学）と学科長の私、長谷（制御工学）の総勢11名のスタッフで学生の教育、指導に全力であたっていく所存ですのでよろしくお願い致します。

さて、「100年に1度の経済危機（経済ニュース）」と騒がれる中の今年の就職戦線。企業は新卒の採用予定者数を大幅に減らし、その選抜も企業独自の厳しい基準で行う。そこにはかつての推薦応募形態（推薦枠がある企業へ教授が学生を推薦する応募方法）は存在しない。言わば、自由応募に近い形態にシフトしています。学生にとって拠り所は「自分の力」のみです。われわれは、このような状況下であるが故に、再度、真に「力」がつく教育プログラムを考え、それを提供しなければならないと考えます。そこで、本年度の運営方針を以下の4つに決めました。

（P1）養成すべき学生像ならびに教育プログラムの見直し

（P2）教員の教育力のさらなる強化。

（P3）学生意識変革プログラムの作成。

（P4）中学生ならびに企業に向けた広報の強化。

ご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、私が日頃、本学科の学生に接して想うことをX君への手紙という形式で書いてみたいと思います。

「親愛なるX君へ：お手紙、ありがとう。学生生活をどのように過ごしたらよいのか悩んでいる様子。すこしその辺のヒントになればと思い、生活をする上で注意すべき点を4箇条としてまとめてみました。

（A1）自己を測る尺度は「昨日よりどれだけ成長したか」。

（A2）体力強化プログラムをもつこと。

（A3）自己の行為の意味づけを行え。

（A4）感受性を鍛え、小さなことにも感動できる自分になる。

少し説明を加えよう。まずは（A1）。君には君の個性がある。他人と比較しないことです。測る尺度は「昨日の自分よりどれだけ成長したか」だと心得ることです。次に（A2）。体力がないと「気力」が湧かない。この「気力」がわれわれの「やる気」の原動力となる。日常の中に体力強化プログラムを組み込んでください。そして（A3）。行為の意味づけができると全てが変わります。例えば、君は「技術」を学ぶ。何故か？「技術」はその時々への労働の投下に掛け合わされる係数として働く。同じだけ労働力を使っても、効率的な技術を用いればより多くのものができる。「技術」は身体機能の外化なのです。また、君は云うかも知れない。なぜ「数学」を学ぶのか。それはわれわれの思考エンジン（頭脳）の増強を図るため。「学ぶもの全て」に対しこのような「意味づけ」をする。そうしたら気づくはず。全ては自己の持つ身体器官の増幅化を図るものであると。最後は（A4）。何故か？紙面が尽きてきた。ともかく、「美しいもの」に触れること。あとは自分で考えてみてください。あっ、ここに励まされる詩がある。茨木のり子（詩人）の「自分の感受性くらい」。以上、君の人生のヒントになればと思い書いてみた。少しお節介だったかもしれない。では、この辺で。」



物質工学科 平成22年度にあたって

物質工学科長
押川達夫

平成22年度が始まり初々しい新入生が入学してから3ヶ月を過ぎようとしております。昨年度に引き続き学科長を担います。どうぞ宜しくお願い致します。新1年生においては、中学校とは異なる授業時間や寮生活で戸惑っている時期も少しずつ薄れてきたのではと思います。

さて、本年4月より古川教員が英国のレスター大学（University of Leicester）へ在外研究員として一年間出向いております。古川教員が担当しております講義・実験等は物質工学科教員一丸となって教育に支障が無いよう努めてまいります。

また、今年度の5年生より従来の講義開講方式であった並列開講から直列開講へと完全移行いたしました。この開講方式の目的は、急速に発展している科学技術に対応できる人材輩出のために、材料コース必修科目を生物コース学生も受講（その逆も同様）できるように再整備したことにあります。既に、保護者の皆様や学生にはご

説明してありますが、ここで改めて付記しておきたいと思います。

教育面として、昨今学科の悩みは、学業不振学生が増えていることでもあります。今まで以上に学生と接しながら注意深く指導を行っていくよう学科会議で意見一致させています。具体的には昨年度に引き続き、演習問題等を頻繁に実施することによって、習熟度を向上させることを学科の教員にお願いしているところです。昨年度より「物質工学科学生実験指導書（2～4年次分）」を1冊の指導書にまとめ（表紙は物質工学科入門講義の中で学生がデザインした作品を採用しています）、2年生から年次進行で利用しています。各学年の年次進行で活用されることが期待されます。

今年度の就職面について、途中経過を報告しておきます。昨年度はリーマンショックの影響から様々な業界での経済低迷が発生したため、就職については心配しておりましたが、さすが沼津高専の実力で就職率は100%でした。今年度については、経済が上向きの状況もあって、求人数と求人会社数が増加しています。今年度の特徴として、過去に求人の問い合わせがなかった企業からの訪問が相次いでいることにあります。やはり、全体として経済が上向きになったことと、採用を控えていたことからの開放と推測されます。しかしながら、採用のハード

ルは厳しい状況のまま継続しています。即ち、アクティビティーの高い学生・将来伸びる可能性のある学生が優先して採用されています。「成績が良く・素直で真面目な学生」だけでは採用されにくいことを学生は承知してください。保護者の皆様へ、悩み多い年齢のお子様を励ましなが、時には厳しい態度で自立を促すようご指導

をお願いしたく存じます。私達、物質工学科教員一同も精一杯の力で学生を指導して行きます。学生、保護者、教員のトライアングル関係を円滑に作動させて行きたい思います。どうぞ支援のほど宜しくお願い申し上げます。



教養科について

教養科長
西 垣 誠 一

昨年度に引き続き教養科長を務めております西垣です。よろしくお願いします。

さて、新入生の保護者の皆様方の中には、「沼津高専に教養科なんて学科があったかな？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、教養科とは学生の所属する学科ではなく、主に基礎教育・教養教育を担う教員の集まりに対する名称です。沼津高専の概要を説明するとき、どのような学科があって、どのような勉強をして、将来はどのような進路があるのかというようなことをお話しするわけですが、実際の学校生活はそうに簡略化されたものではありません。すなわち、沼津高専に入学しただけで優秀な人材として卒業できるわけではありません。高度な知識や技術を身につけるためには、やはりしっかりとした基礎を築く必要があります。また、実社会の生活では自分の専門のことにのみしか知識がないようでは、幅広く活躍することはできないでしょう。幅広い教養を身につけることにより、人間性も豊かになり考え方も豊かになるのです。教養科の教員の担っているのはそのような部分だと言えるでしょう。

教養科のご紹介としてもう1つ述べておきたいことは、1・2年生の学級担任は教養科教員が担当しているということです。子供から大人へと成長していく過程で知識の蓄積にのみ偏るのではなく、人間的にも大きく育ってほしいと願うところですが、そのような中、各学級担任は学科の特色も尊重しながら各学年で共通した考えのもと学生指導を行っています。その1つとして、毎年学年目標を定め、その目標を念頭に足並みを揃えて指導するよう努めています。今年度の学年目標は、次の通りです。

第1学年

- 一、規則を守り、自律した生活を送る
- 一、授業を大切にし、計画的に学習する
- 一、他者を思いやり、公共物を大切にする

第2学年

- 一、全体を考えて、自分から行動する。
- 一、授業を大切にし、計画的に学習をする。
- 一、規則を守り、自律した生活を送る。

この学年目標をクラス内に掲示し、1年間を通して指導していきます。

学生諸君にとり、日々の生活の中にはうまく行かないことや悩んだりすることもあります。そのような中で、低学年の担任の果たすべき役割は非常に大きいものがあると考えております。保護者の皆様にも、ご心配なことなどございましたら、どうぞ担任までご相談下さい。

沼津高専に入学した学生諸君が立派に育ってくれることを願っております。

平成22年度 人事異動について

発 令 日 付	氏 名	異 動 の 内 容	旧 職 名 等
平成22年3月31日	野 澤 正 信	定年退職	教授（教養科）
	大 原 順 一	退職（水産大学校）	准教授（電子制御工学科）
	林 剛 司	退職	講師（教養科）
	岩 谷 隆 史	再雇用期間満了	特任教授（機械工学科）
平成22年4月1日	蓮 實 文 彦	学生主事を併任	教授（物質工学科）
	遠 藤 良 樹	寮務主事を併任	教授（教養科）
	芳 野 恭 士	校長補佐（専攻科長）を併任	教授（物質工学科）
	大久保 清 美	校長補佐（特定業務担当）を併任	教授（教養科）
	高 津 浩 彰	豊田工業高等専門学校に配置換	准教授（教養科）
	藤 井 数 馬	香川高等専門学校に配置換	講師（教養科）
	大 澤 友 克	豊田工業高等専門学校に配置換	准教授（電気電子工学科）
	草 間 裕 介	講師（電気電子工学科）に配置換	香川高等専門学校 講師
	山 中 仁	准教授（機械工学科）に採用	
	青 木 悠 祐	助教（電子制御工学科）に採用	
	野 澤 正 信	特任教授（教養科）に再雇用	教授（教養科）

平成22年度 校務分掌

平成22年4月1日 現在

校 長	柳下 福藏
副校長（教務主事）	教 授 大島 茂
校長補佐（学生主事）	教 授 蓮實 文彦
校長補佐（寮務主事）	教 授 遠藤 良樹
校長補佐（専攻科長）	教 授 芳野 恭士
校長補佐（特定業務担当）	教 授 大久保清美
機械工学科長	教 授 小林 隆志
電気電子工学科長	教 授 望月 孔二
電子制御工学科長	教 授 舟田 敏雄
制御情報工学科長	教 授 長谷 賢治
物質工学科長	教 授 押川 達夫
教 養 科 長	教 授 西垣 誠一
図 書 館 長	教 授 江間 敏
総合情報センター長	教 授 牛丸 真司 (副) 講 師 中道 義之
地域共同テクノセンター長	教 授 藤尾三紀夫 (副) 准教授 鄭 萬溶 (副) 准教授 稲津 晃司
技 術 室 長	教 授 西田 友久 技術長 増田 博代
学生生活支援室長	准教授 能登路純子
実習工場長	教 授 小林 隆志 (副) 准教授 井上 聡
事 務 部 長	奥野 芳明
総 務 課 長	布施 典明
	課長補佐 露木 弘充
	課長補佐 影島 義三
学 生 課 長	山添 均
	課長補佐 室伏 啓二

教 務 主 事	教 授 大島 茂
教務副主事	教 授 村松 久巳
教務主事補	教 授 遠山 和之 教 授 勝山 智男

学 生 主 事	教 授 蓮實 文彦
学生副主事	< 欠 員 >
学生主事補	教 授 待田 芳徳 准教授 井上 聡 准教授 野毛 悟 准教授 鈴木 茂樹

寮 務 主 事	教 授 遠藤 良樹
寮務副主事	< 欠 員 >
寮務主事補	准教授 西村 賢治 准教授 渡邊志保美 講 師 永禮 哲生

教科主任	
国 語	教 授 坂本 信男
社 会	教 授 野澤 正信
数 学	教 授 谷 次雄
物 理	教 授 勝山 智男
化 学	准教授 小林 美学
体 育	教 授 渡邊志保美
英 語	教 授 塩谷 三徳
ドイツ語	教 授 大久保清美

学級担任		
機械工学科		
M	1 年	坂本 信男 (副) 宮内 太積
	2 年	勝山 智男 (副) 永禮 哲生
	3 年	西田 友久
	4 年	三谷祐一朗
	5 年	手塚 重久
電気電子工学科		
E	1 年	種村 俊介 (副) 高矢 昌紀
	2 年	澤井 洋 (副) 真鍋 保彦
	3 年	高橋 儀男
	4 年	代表 高野 明夫
	5 年	嶋 直樹
電子制御工学科		
D	1 年	代表 佐藤 崇徳 (副) 青木 悠祐
	2 年	代表 塩谷 三徳 (副) 森井 宜治
	3 年	長澤 正氏
	4 年	鄭 萬溶
	5 年	代表 川上 誠
制御情報工学科		
S	1 年	住吉 光介 (副) 相良 誠
	2 年	松澤 寛 (副) 鈴木 茂樹
	3 年	代表 芹澤 弘秀
	4 年	大久保進也
	5 年	宮下 真信
物質工学科		
C	1 年	小林 美学 (副) 後藤 孝信
	2 年	平田陽一郎 (副) 山根 説子
	3 年	藁科 知之
	4 年	竹口 昌之
	5 年	大川 政志

平成22年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名				
陸上競技部	渡邊志保美	牛丸 真司				
ソフトテニス部	佐藤 崇徳	塩谷 三徳	山根 説子			
バレーボール部	種村 俊介	大庭 勝久	大石加奈子			
バスケットボール部	遠山 和之	永禮 哲生	松本 祐子			
野球部	高矢 昌紀	渡辺 敦雄	手塚 重久	高橋 儀男	松田 伸也	青木 悠祐
卓球部	稲津 晃司	高野 明夫				
柔道部	松澤 寛	西垣 誠一				
剣道部	澤井 洋	谷 次雄				
サッカー部	中道 義之	江上 親宏	駒 佳明	草間 裕介	山中 仁	
ラグビー部	井上 聡	鄭 萬溶	小林 隆志			
体操部	佐藤 誠	大久保進也	江間 敏			
水泳部	小林 美学	西村 賢治	新富 雅仁	大久保清美		
合気道部	長谷 賢治	舟田 敏雄				
テニス部	竹口 昌之	川上 誠	後藤 孝信	平田陽一郎		
スキー部	嶋 直樹	藤尾三紀夫				
ハンドボール部	野毛 悟	西田 友久				
弓道部	芳野 恭士	佐藤 憲史				
空手道部	宮内 太積	芹澤 弘秀				
バドミントン部	押川 達夫	住吉 光介	坂本 信男			
トライアスロン部	三谷祐一朗	能登路純子				
吹奏楽部	鈴木 茂樹	藁科 知之				
囲碁将棋部	大川 政志	相良 誠				
ロボコン部	望月 孔二	鈴木 康人				
学生会	鈴木 茂樹	野毛 悟	松本 祐子	山中 仁		
文化サークル連合(科学技術)	真鍋 保彦	吉野龍太郎	村松 久巳	勝山 智男		
文化サークル連合(文芸・文学)	宮下 真信	長澤 正氏	待田 芳徳			

文サ連（科学技術）機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン

文サ連（文学・文芸）茶道・合唱・軽音楽・ESS

平成22年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏名	担当	本職
杉山 賢一	内科医	杉山病院
堰澤 敦	歯科医	せきざわ歯科医院
伊海 仁	薬剤師	壮健研究所薬局
宇治 友子	カウンセラー	オフィス友
房間 貞	カウンセラー	常葉学園

着任挨拶



一流のエンジニアを目指して

機械工学科
山中 仁

本年4月1日付にて機械工学科の准教授として着任いたしました山中 仁です。平成8年3月に東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻を修了し、その後大手機械メーカーの設計エンジニアとして10数年勤務していました。私が設計していた機械は新聞、チラシ、雑誌、電話帳などを印刷する「オフセット輪転機」とよばれる産業機械です。平成20年4月に技術士（機械部門）を取得し、縁があってこの春より沼津高専にお世話になることになりました。専門は設計工学（CAD、CAEを含む）、機構学です。

さて、一昨年のリーマンショックに端を発する日本経済の低迷、それに伴う新卒採用者数の削減が毎日のように報道されている昨今ですが、このような時代にも拘わらず高専に対する製造業の求人はいくつかの堅調です。その理由は高専の「ものづくり」に対する教育成果が製造業において高く評価されているからだだと思います。しかし某自動車メーカーの大規模リコールに代表される品質の問題や近隣諸国との激しい価格競争などにさらされ、今や日本の「ものづくり」は性能、価格においてかつてのように世界一であると胸を張れる時代ではなくなりつつあるように感じます。私は企業において様々なエンジニアと接する機会が多くあったのですが、ベテランのエンジニアは若者の理工系離れはもとよりエンジニアの質の低下を懸念している方が多いです。彼らの言うエンジニアの質とは何でしょうか。それは「一歩先を見通すこと

のできる能力」のことだと思います。エンジニアには自分が設計し製造した製品が市場に出回った時、どのようなお客様がどのように製品を使われるかに思い巡らせる能力はもちろんのこと、製造し易さや組立て易さ、部品入手の容易さ、最近では環境に配慮して安全性や廃棄のことまで総合的に考えられる能力が求められます。さらに自分や他人の仕事を効率的に実行する方法までも考えないと世界レベルでの熾烈な競争には勝てません。一歩先を見通すとはどういうことか？身近な例で考えてみましょう。学生の皆さんは「何故ITの進歩した現在でも設計製図の授業はCAD（Computer Aided Design）が主流ではなく、未だに手書きなのか？」と思っているかもしれません。実は優れたエンジニアほど手書き製図をとっても大切に考えています。彼らは「図面を描かなくてはならない状況」をも見通しているからです。もし製品の納入先で何かトラブルが発生し、すぐ設計変更をして新たな部品を製作しなくてはならない状況に陥った時、「コンピュータやCADを持ち合わせていないので、今は設計ができません」とお客様に説明しますか？優れたエンジニアになるためには最先端のCADやコンピュータを駆使できる能力はもちろんのこと、「物事を論理的に考えることのできる能力」「考えを的確に相手に伝達することのできるコミュニケーション能力」「仕事を効率的に行うことができるように考えられる能力」という基本的な能力をも訓練し続けなければなりません。そういう能力を身につける基本訓練には手書きの設計製図が最も適しているのです。

日本一の山である富士山を望む沼津の地で「日本を代表するような一流のエンジニア」を輩出できるように頑張ります。保護者の皆様、教職員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。学生の皆さん一緒に頑張しましょう。



読書と食事

電気電子工学科
草間 裕介

小学校や中学校のとき、読書が大切ということを先生や親からよく聞かされました。国語が苦手だった私はそのとき、国語の成績を良くするための方策だと思っていました。でも最近その本当の意味が分かった気がします。最近開いた本に「読書」＝「心の食事」ということが書いてありました。肉体に食事を与えないと目に見えて衰えるように、心も自覚症状に乏しいが「1日読まなければ

ば1日衰える」ようです。心の食事は読書だけでなく、日々の経験とか周囲の人との関わりによるところが大きいです。実際には経験や関わりだけでは不十分だそうです。

我々の専門工学実験の「実験」と専門講義の「理論」との関係にも同じことが言えるのではないのでしょうか。実験中に何かを経験しても、そこで生じた感動とか疑問などの感情を、図書館や本屋、インターネットなどで調べてやっと理解できたとき、はじめてその題目がその人の養分になるのだと思います。人生と工学実験では性質が異なりますが、ともに経験だけでなく読書が必要という意味で同じではないかと思っています。また、どちらの読書も人から強要されても意味はなく、いろんな比較をしながら試行錯誤して自分に合う本を見つけることに意味

があるのだそうです。とにかく自分の心が喜ぶ本を見つけたということではないでしょうか。

本探しの基本は図書館です。図書館を利用する上で最大の利点はお金がかからないということです。しかし、常に最新刊が揃っているわけではありません。気に入った本でも必ず返さなくてはなりません。そんな時、1番効果的なのはインターネットです。和書ならAmazon.co.jp、洋書ならAmazon.comから簡単に購入することができます。私が参考にするのはレビュアーの感想と★の数です。かなり参考になりますが、個人の感想はどうしても読み手のその時点での知識レベルや心の状態、期待するもの等に左右されるので★の数が多くてもハズレもあります。これは商品を実際に手にとって見るができないインターネットの欠点です。何よりも高価だったのにハズレを引いたときのショックは大きいのです。ハズレをなくすより確かな方法は、日本最大の本屋に行くことです。東京駅八重洲南口近くの八重洲ブックセンターは品揃え最上級（私の知る限り最大）です。また、和書の古本は手に入りにくいですが、理工学専門の古本なら神田神保町にある明倫館書店が有名です。

高学年に進むに従って増える専門科目で「応用」を勉強し、挫折せずに次のステップに進むためには、「基礎」

がとても大切です。諸先輩の誰もが口を揃えて言うことです。高専でその基礎とは数学です。ある科学者が「基礎を勉強するならまずその基礎が使われている応用を知るべきだし、応用を勉強するならまずその基礎を勉強するべきだ」と言ったそうです。この言葉は科学者としての長年の経験が深く染み込んだ言葉であると思います。

阪神大震災では新幹線の橋脚が何箇所か崩れました。後々この原因を調べると興味深いことが分かったそうです。それは崩れた橋脚の下は例外なく、昔は川や沼地だったそうです。それだけ地盤（基礎）が大切だということです。砂の上にいくら立派な家を建ててもそのうち崩壊します。

例えば、「数学を基礎から勉強する必要があるな」と感じたとき、大村平氏の「おはなしシリーズ」（日科技連出版社）を私はよく読み返します。高校から大学初級の数学と物理が中学生にわかるように十分配慮して書かれている良著であると思います。これでは物足りないと感じたら宮腰忠氏の「高校数学+ α ：基礎と論理の物語」（共立出版社）も割としっかり書かれています。

学生の皆さんはどうか焦らないで下さい。きっといつか自分に合う本が見つかります。私は30歳でやっと心が喜ぶ本を見つけました。



高専生活のススメ

電子制御工学科

青木 悠 祐

本年4月1日付で電子制御工学科に助教として着任いたしました、青木悠祐と申します。

私は平成16年度に木更津高専電子制御工学科を卒業し、東京農工大学工学部電気電子工学科に編入、そのまま東京農工大学大学院生物システム応用科学府に進学し、3月まで博士後期課程の学生として研究に従事していました。専攻はロボット工学と生体医工学で、本校では人とロボットが協力しながら行う診断支援システムの研究を行う予定です。

私も6年前まで学生のみなさんと同じように高専生でしたので、私の高専時代を少しご紹介します。高専時代の思い出といえば、友達や先輩後輩、先生方と本当によく話し、よく語り、よく競い、よく遊んだことです。テスト期間の徹夜の日々も、最終日の解放感も、合格がもらえるまで何度も書き直した実験レポートも、発表直前まで完成せず苦しんだ卒業研究も、毎日の友達とのくだらない会話も、全てがとても良い思い出です。そんな私は、1年生の時に工学実験で作った1台のロボットがきっかけでロボットに魅力を感じ、高専でも大学でもロボットの研究を行ってきました。そして今年度、ロボット工

学を専門とする高専の先生になれたこと、とても嬉しく思うと共に、身の引き締まる思いがしています。

ここで少し研究の話をしたいと思います。現在、社会が抱える問題の中でも、医療の問題は深刻で、超高齢社会の到来に伴う医師の不足による医療費の高騰、医療サービスの地域間格差や患者の大病院集中現象などが挙げられます。これらの解決法として医師の負担を軽減する診断システムの開発が求められているのですが、私の研究では数多くの診断項目の中でも超音波診断を対象としています。超音波診断（エコー検査）とは、医師がプローブと呼ばれる器具を患者の体表面に押し当てるだけで、身体内部の構造を動画像で観察することができ、あらゆる診療科で使用されている診断です。胎児の診断に用いられるほど低侵襲的で安全である点から医療現場では必要不可欠となっていますが、その反面、医師はプローブを手で動かすため、熟練の度合いによって検査時間、さらには検査結果に差が出るという問題があります。そのため、プローブ操作を代行する医療ロボットに関する研究が盛んに行われており、私の研究もこの点に着目しています。ロボットによる超音波検査が実現することで、より精密なプローブの操作ができるだけでなく、離島や無医村を対象とした遠隔医療への応用、さらにはロボット単独による自動診断が期待されています。

医療ロボットを開発するには当然のことながら、ロボットを開発する工学研究者と医学を担う医学研究者が密にコミュニケーションを取りながら、きちんと使える・役に立つ機器を開発しなければなりません。この時とても

重要なのは、私たち工学研究者は「あと何ミリ、何度」と誰でもわかるような表現でロボットに指示を出しますが、医学研究者は「もうちょっとこっち、あと少し」のように長年の経験をもとに指示を出します。つまり「定量・客観」を重んじる工学と、「定性・主観」を重んじる医学が融合する医工学の分野では「相手の立場に立って考え、行動すること」が大切になります。この考え方は、日常生活でも同じです。友達とうまくコミュニケーションを取るには、好きなあの子にアタックするには、部活でもっとチームワークをよくするには、1発でOK

をもらえるレポートを書くには…等、相手の立場に立って考えることを意識してみてください。

最後に、高専の先輩でもある私から学生のみなさんへ伝えたいのは「高専生活を思いっきり楽しむ」ことです。勉強にも部活にも何事にも、楽しむ気持ちを持って取り組むことが大切です。その時に是非私たち教員をうまく利用して下さい。私もまだまだ勉強することはたくさんあります。共に育ちましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

新入生から

声

機械工学科1年 村松星彦

僕がこの沼津高専に入学してから、早いもので1ヶ月が過ぎました。少しずつですが、中学校の頃とは全く異なる高専での生活、寮での生活に慣れてきました。同じ寮、同じクラスの友人もできはじめ、日に日に生活が楽しくなってきました。当初は、育った町と離れた沼津での生活や、家族や地元の友人と会えない環境に戸惑い、話や相談がしたくても周りに知っている顔がひとつもなく、1人で考えこんだ夜もありました。

しかし、それを思うたびに、僕は今、家族、友人、多くの大人の支えがあってこそここにいるのだ、と改めて思うのです。

今からちょうど1年ほど前、僕が中学3年生になって、新聞の記事で沼津高専のことを知り、進路候補に沼津高専のことを考えはじめた時のことです。その頃僕は、勉強にしても、部活にしても何にしても中途半端な生活でした。そんな中、クルマが好きで将来は自分の車を自分で作って乗りたいと思っていたこともあり、沼津高専に入ればクルマについて学べ、さらに卒業後もそれに関係した職につけるのではないかと思い、本気で沼津高専への受験勉強を始めました。といっても、その頃の成績では、沼津高専を受験することは無謀でした。

周りの友人が地元の進学校や公立高校を目指す中、1人で高専の受験勉強をすることはとても大変で、また孤独でした。しかし、家族は受験情報を集めてくれ、友人は温かい言葉をかけてくれ、また何より一緒に受験を戦ってくれました。先生方も勉強を教えてください、熱い言葉をかけてくださったりして、僕を奮い立たせてくれました。そんな多くの方々の支えもあって少しずつ成

績もよくなり、テストでも満足な結果を残せるようになりました。しかし、推薦選抜の基準にはあと一歩届かず、学力に自信のなかった僕は、半ば沼津高専を諦めており、周りの友人と同じ学校に行くこともいいか、などと考えるようにさえなっていました。

そんな時、家族、友人、先生方は温かい言葉やエールを送って下さり、再び僕を奮い立たせてくれました。

その勢いで学力選抜で合格を掴み取ることができました。その時の喜びは本当に忘れることのできないものでした。

しかし、中には、僕と同じように努力した人でも、今ここにいない人たちがたくさんいます。逆を言えば、その人たちがここにいないから、僕はここに居ることができるのだ、と思います。

その人たちや支えてくれた多くの人たち、特に両親、友人たち、祖父母、塾の先生方、学校の先生方に感謝し、また、その人たちの「声」を背負って、これから多くのことに取り組んでいきたいと思います。それからまた僕が挫けそうになったらまた声をかけてほしいと思います。本当に多くの人に感謝しています。ありがとうございます。それからまたどうぞよろしくお願いします。



高専生活の始まり

電気電子工学科 1年 東 條 豊

僕が高専の受験を決めたのは、中学3年の12月になってからでした。それまでは高専のことについては、ほとんど何も知らない状態であり、1日体験入学や公開講座などといった高専のイベントにも1度も参加しませんでした。

そんな僕がなぜ高専の受験を決めたかという、ホームページで高専卒業後の進路状況を見て、就職率や大学への編入状況がとても良かったことと、中学生の頃に1度卓球部の遠征で訪れたことがあり、そのときに先輩方がとても丁寧にアドバイスしてくれたことが印象に残ったからです。また、寮生活に不安を抱いていた僕に、「あなたは、性格的にも穏やかでどんな人ともうまく接することができるから心配することは無いよ。」と言ってくれた一言も大きな後押しとなりました。

中学3年の受験シーズンの時は、毎日勉強ばかりで自分のやりたいことはあまりできませんでした。特に僕は国語がとても苦手で高専の過去問をやっても全然できませんでした。

だから、得意な数学や理科の勉強をたくさんし、もっと点数を伸ばせるように努力しました。受験が終わり、合格発表までの5日間はとても緊張しました。合格が決まったときは、ほっとして腰が抜けそうになりました。

そして、4月5日にととう高専生活が始まったわけですが、僕の中学校からは9人も入学し、寮にも学科にも友達がいたので、そんなに不安はありませんでした。

高専に入ってから僕が一番戸惑ったことは、授業についてのことです。中学校のころは、50分授業でしたが、高専の授業は90分でした。最初の2週間は慣れていなかったのとてもきつかったです。また、授業の進行速度がとても速く、先生も何でもかんでも黒板に書いてくれるわけではなかったので、自分で考えてノートをとめなければならなく、大変な毎日が続きました。授業で勉強

する内容も格段に難しくなり、毎日の予習、復習の大切さが分かりました。高専では普通の学校とは違い授業の教科に専門科目が何教科か入ってくるので卒業してからも必要となる専門科目を大切にし、しっかり理解をするようにしたいです。

寮では、規則が厳しいものだと思っていましたが、そんなに気になる程厳しくもなく、自由も十分にあり普通の生活を送ることができています。家にいるときは、いつも親に洗濯や部屋の掃除をやってもらっていたので、自分でやるのは大変でしたが、徐々に慣れてきました。同じ階の学生とはすぐに仲良くなり、楽しく過ごすことができています。1年間一緒に過ごす仲間なので、協力し、お互いに助け合っていきたいです。また、自分達より多くのことを知っている階長や棟長などの上級生の話をよく聞き、分からないことは質問をしてたくさんのことを覚えていきたいです。

今年は、初めてのことでばかりで戸惑うこともたくさんあると思います。義務教育の小学校や中学校とは違い、色々なことを自分で考えて行動しなくてははいけないし、責任も大きくなりました。ぼくはまだ1年なので高専の中では1番年下で人生経験も1番少ないと思います。だから寮祭のスタッフやクラスの係などに積極的にに関わり、経験をどんどん積んでいきたいです。また、クラスメートや上級生とたくさん話をして交友を広げていきたいです。



学生となって

物質工学科 1年 寺 前 香 里

4月5日、今まで「志望校」だった沼津高専が「自分の学校」になり、自分自身も「生徒」から「学生」となりました。

入学式では、多くの先生方に高専での勉強のことや学生としての心構えなどをお話頂きましたが、その中でもある先生のおっしゃった「今はこれから始まる5年間のスタート地点に立ったに過ぎないのだから、まだおめで

とうとは言いません。」という言葉が耳に残っています。あいにくの雨となりましたが、母と2人でも持ちきれないほどの教科書を手にし、5年間ここで頑張ろうと決心しました。

それからの日々はとても新鮮でした。全く体験したことのない世界に飛びこんできて、新しく覚えなければならないことばかりです。特に寮での生活は驚くことばかりでした。今まで先生など指導する大人がいて大方やるべきことが示された上で行動していたのに、寮で行われる活動は、ほとんどと言っていいほど学生が行っています。初めは先生方のあまりいない中で物事がしっかり進んでいく光景が不思議でしたが、今ではもう当たり前と

なっています。しっかり者で何でも優しく教えてくれる棟長さんが2年生だと知ったときも本当に信じられませんでした。1年後、自分たちもこんな風になれるのかな、と心配になるほどでした。最初は丁寧に指導してもらいますが、2回目からの失敗は注意されます。家ででの生活に慣れていて私たちにとって寮でのルールやマナーは少し厳しく感じますが、どれも集団生活の中で相手を思いやるためのものばかりなので、それが自然と守れるようになり、当たり前になったら教育理念でもある「人柄のよい優秀な技術者」に少しでも近づけると思うので、早く身につけていきたいです。

学習面も大きく変わりました。90分授業で1回の内容量が多いにも拘わらず、同じ教科は多くて週に2回程度しかないのです、とても記憶はもちません。日々の予習・復習の大切さを身にしみて感じています。4月の御殿場研修では、単位の話や沢山聞き、大変不安になりましたが、同時に今後の学習方法をきちんと見据えることができるとともに、クラスをこえた仲間の輪を広げることができました。

また、私は食品や副作用の少ない薬などに興味を持って物質工学科を選択しました。実際に授業を受けていると、ほとんどの先生が自らの研究課題を持っており、こういう研究があるんだ、こういう社会への貢献方法があ

るんだ、という風に次から次へと興味深いものに出会うので、その度に視野が広がります。今まで研究やモノ作りは自分とは遠い世界のことだったのに、自分の身近に感じられるようになり、とても楽しいです。

15歳で寮生活をする、という貴重な経験もそうそうできることではないと思うので、1日1日を大切に過ごしていきたいです。まだ自分に何が一番合っているのか、何が苦手なのかも分かりませんが、これからずっと一緒に過ごしていく仲間と切磋琢磨しながら、「学生」という自覚を持って学業に、部活に励んでいきたいと思います。



卒業生から

コンテスト受賞から 高専時代を振り返って

機械工学科41期 津 島 亮

沼津高専から離れ1年が経ちましたが、7年間過ごした高専生活はまるで昨日のようです。

私は本科機械工学科を卒業後、専攻科機械・電気システム工学専攻に進学し、昨年春に卒業・就職しました。私の専攻科での研究テーマは、磁気浮上装置の開発だったのですが、今年開催された第4回技術教育創造の世界（大学生版）発明・工夫作品コンテスト（教材開発部門）において特別賞を受賞しました。このような賞をいただくことができて光栄です。またコンテストの参加を奨めて下さった三谷准教授には大変感謝しています。

磁気浮上というのは磁力によって物体に作用する重力を打ち消し、物体を空中に浮かせることです。それを小型の実験装置上で実現し、教育現場で利用する教材とすることが研究の目的で、実際に高専の授業や中学生対象の公開講座、出前授業に利用されました。

思い返せば苦労したことがたくさんありました。実験装置の設計は図面の設計製図、電気回路の設計、制御系

の設計、マイコン（マイクロコンピュータ）のソフトウェア設計（プログラミング）があり、幅広い知識が必要でした。この装置は制御工学の実験が題材なのですが、実際に装置が動くまでには設計製図して装置をつくり（機械工学）、設計した電気回路を基板上につくり（電気工学）、マイコンのプログラミングをする（情報工学）、と周辺知識の比重が大きく制御工学の実験はそれらができた後でやっとできるのです。私は機械工学科卒なので機械工学の知識はあり、またプログラミングは趣味でやっていたので得意分野だったのですが、電気工学は授業で数科目やっただけであり、しかも実際の回路設計では電子部品の選定方法や回路製作のノウハウなども学ばなければならず、大変苦労したことをよく覚えています。

中学生対象の公開講座を開催するときも毎年苦労しました。公開講座では中学生に磁気浮上装置の組み立てと簡単なはんだ付け、そして浮上実験を行ってもらおうのですが、その準備として磁気浮上装置をある程度作っておく必要があります。その中でも電磁石のコイルを巻く作業と基板のはんだ付け作業に時間がかかり、それを参加者の十数人分つくるのは時給を貰いたいぐらいでした。けれど参加した中学生が完成した装置で磁気浮上を成功させて喜んだり不思議そうにしたりしている姿を見ると毎年やってよかったと思えました。

そして、会社に入り社会に出てみればこれらの経験は非常に価値のあるものだったと感じています。現代の機械というものは電気やコンピュータなしでは成り立たないものであり、その設計開発では磁気浮上装置と同様に機械工学、電気工学、制御工学、情報工学あるいは化学などの知識が複合的に必要となるということを実際に職場で感じました。また、この実験装置の開発でそれらの分野を広く学んだことにより、機械的な機構や電気的な部品や電子回路などがどのように動いて全体として機能しているのかが想像できるようになり、これは非常に大きな財産であると思います。

一生勉強だ！

制御情報工学科12期 長 島 徹

私は沼津高専制御情報工学科を卒業して3年、現在はソフトウェア開発者として活動しています。昨年度は業務の傍ら、ETロボコンという企業向けロボコンに参加し、総合優勝しました。

この度、高専だよりに記事を書ける機会をいただけるということで、私がいるソフトウェア業界で働くにあたって、大事な教訓を伝えたいと思います。

◆進化を続ける業界

ソフトウェア業界は、進歩の速度が非常に早いです。時に現在は1995年以来の大規模なパラダイムシフトの渦中にあります。プログラミング言語には並列化と関数型、そして標準化をキーワードに革命が、設計手法にはOOPに続く関数型という波が、開発手法にはアジャイル・リーンという改革が、それぞれ起こっています。

まさに昨日の新技术が明日には陳腐化しているといった有様で、日々業界の情報を追いかけて、勉強を続けなければ「あっ」という間に取り残されてしまうでしょう。

◆外の世界に目を向けよう

少しネガティブな発言をしますが、学校で教わるプログラミング等の技術は基礎的です。それは音楽家に例えるならば「楽譜の読み方や楽器の使い方」レベルのことであり、作曲や演奏の技術ですらありません。しかも古い。数週間～数ヶ月のスパンで新技术や新製品をリリースするのが主流になりつつある今、講義が改定されるのは年単位です。他方、企業でも信頼性が求められる業務では最新技術など使えませし、最新技術を教えられる人が企業内にいることはまずありません。

どちらにしても、技術は自ら学ぶ必要があります。そして、それを助けてくれるコミュニティが、組織の中に

高専で学ぶことのできる知識は実用的なものが多く、会社での実務に直接役立つことも少なくないと思います。しかし、しっかりと理解できるまで勉強したことは後になって見返せば記憶が蘇ってきますが、試験対策しかなかった教科はすっかり忘れてしまっています。勉強というのは自分で理解できるまでやらなければ意味がないのだと、学校から離れた今つくづく感じています。

社会に出てからは学生の頃と違い勉強する場は自分で作らなければなりません。さらに技術は日々進歩していきます。それに乗り遅れないよう、そして早く一人前の技術者になれるように自己研鑽していきたいです。

は無数に存在するのです。

◆勉強会や交流会に参加しよう

実は、第一線で活躍している技術者に会う機会がそこかしこに転がっています。例えばちょっとTwitterを開いて、活動的なソフトウェア技術者たちをフォローしてみましょう。きっと「〇〇」の勉強会を開催します」や「〇〇交流会に参加します」というようなつぶやきが見つかるでしょう。開発者のコミュニティは毎週のように何らかの勉強会・交流会を開催しています。少し勇気を出して手を挙げるだけで、それらに参加することができます。

どのコミュニティであっても、学生は歓迎されるでしょう。そこでは様々な組織の様々な立場の人たちが活発に情報交換や技術的な議論をしています。得難い経験とともに、ちょっとしたコネも得られるかもしれません。

◆意欲的な技術者を助けるツール

また近頃は、世界は意欲的な技術者にとても優しくなっています。著名な技術者の個人ブログで彼らの思想や技術話に触れることは勉強になります。Ustreamでは参加できない勉強会や交流会の中継を見ることができますし、同時にTwitterを開くことで、世界中の人と中継を見ながら意見交換ができます。講演の資料などはslideshareでいつでも閲覧できます。

他にも様々なツール・サービスが開発され、意欲的な技術者の活動を助けてくれています。

◆まとめ

ソフトウェア業界で生きていくためには、一生に渡って学習を続ける必要があります。学生時代に培った「自ら勉強する習慣」は素晴らしい財産になるでしょう。逆に、それが無い学生がこの業界に入ると悲惨なことになります。また、組織の外に目を向けましょう。オープンなコミュニティに参画して活発に情報を交換し、議論をしましょう。その経験は一級の技術者になるための道のりを、確実に示してくれます。

在校生の皆さんへ

物質工学科39期 河合 佑 加

皆さん、こんにちは。私は2009年の3月に物質工学科を卒業しました。卒業後は就職を選び、現在日星電気という会社で働いています。

2008年の5月、会社からの内定を頂いた私は、就職先が決まったという安心感と共に、「高専卒でやっていけるんだろうか…」と不安を感じていました。いくら専門的な勉強をしてきたとはいえ、大学へ4年間通った人達についていけないのでは、と考えてしまっていたからです。高専卒業後、就職を希望している在校生の皆さんには、少なからず同じような不安があるのではないのでしょうか？今回私の経験談（といってもたった1年間ですが）で、その不安が少しでも和らげば嬉しいです。

私が会社に入ってから驚いたことは、高専で習ってきたことがそのまま活かされたこと。と言っても、専門的な知識の話ではありません。会社では「いかに自分の意見をわかりやすく相手へ説明するか」が重要になります。特に私の仕事は製品の開発、評価なので、ディスカッションをする機会が多いです。そんな時、高専で学んだ発表方法、話し合い方法などを思い出し、伝えたいこと、知りたい事を明確に相手に伝えるのに役立っています。

他にも、寮生活で養った精神力や、他人とのコミュニケーション能力など、高専でしか学べず、現在に役立っていると思うことが多々あります。

在校生の皆さんには、是非「高専だからだめかも」ではなく「高専にしかない利点」を探して欲しいと思います。

ネガティブに考えず、常にポジティブに高専生活を送ってください！以上、最後まで読んで下さってありがとうございました。

留学生から



よろしくお願いします

電気電子工学科3年
ン ジェ ホン

3月29日は、私にとって大切な日です。その日は私が日本に勉強しにきた最初の日です。それだけでなく、私が初めて国と家族から遠く離れた日でした。その時は泣きたかったが、我慢していました。

私の国はマレーシアです。マレーシアの漢字名は「馬來西亞」です。マレーシアは、東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を国土とする連邦立憲君主制国家です。マレーシアの人口は約2746万人で、首都はクアラルンプール、火山がなくて地震もなく、平和な国です。そして、マレーシアの天気は、1年中晴れと雨しかありません。日本と違い、マレーシアは多民族の国で、三大民族はマレー系、中国系、インド系です。民族によってそれぞれお祭りをするので、1年中たくさんのお祭りが行われています。同じように食べ物も民族によっていろいろな料理があり、お互いに他の民族の食べ物も食べています。しかし、インド系とマレー系はほとんどの食べ物が辛いです。マレーシアには富士山より高いキナバル山があります。旅行するなら、マレーシアはいいところだと思います。

日本に着いた時、成田空港の外の温度が1度しかなかったので、日本はとても寒い国だと思いました。話をする時、口から水蒸気が出るほど寒かったが、面白かったで

す。マレーシアではそんなことは絶対にありませんから。

高専にきた時、担任の先生と一緒に校長先生にお会いしました。先生たちは優しいです。私が着いたばかりの頃、留学生の先輩が、何回も銀行や役場など大事な場所に連れて行ってくれました。自転車に乗ることはとても疲れることだと感じました。国ではどこかに行くときは大抵車を使っていたからです。

授業が始まったばかりの頃、先生がおっしゃっている事が全然分かりませんでした。私はクラスに居たけど居ないような気がしました。しかし、幸いにもよいチューターがついてくれ、彼のおかげで授業が少しずつ進められるようになりました。私のクラスは、うるさいというより元気がよいという形容詞が最も適していると思います。皆は私のことを知らなかったけれど、話しかけてくれ、本当に嬉しかったです。私も皆のことはまだよくは知りません。名前が少し分かるくらいです。隣や後ろに座っている服部君や稜太君には色々教えてもらっています。井岡君はコンピュータが得意で、浅利君は歌が大好きようです。高田君はよく皆を笑わせてくれます。茅野君は、おもしろい人です。成将君は私をソフトボールに熱心に誘ってくれました。そしてクラスにいたたった1人の女性、伊藤純さんは優しい人です。私は皆と本当はもっとたくさん話をしたいです。しかし、皆が話しかけてくれる言葉が半分くらいしか分からないので、返事ができないことが多いです。

最後に沼津高専の皆さんにたくさん声をかけてもらいたいです。たくさんの友達をつくりたいです。よろしくお願いします。



「日本に行きたい」

物質工学科3年

タオセンマニ ウィエンサイ

みなさんこんにちは。私はラオスから来た物質工学科3年のタオセンマニ ウィエンサイです。

私は中学生の頃、日本への留学を全く考えていませんでした。しかし中学卒業後、ラオスの北部にあるCSA財団支援教育の寮生となって成績優秀で卒業した者には、奨学金が支給されることを知りました。そこで、私は高校1年生から財団の寮で寮生活を始めました。その頃は日本へ留学するといっても、日本のことを何も知りませんでした。毎年、財団の方が寮に訪問に来て日本についていろいろなことを教えてください、自分もだんだん日本に行きたいと思うようになりました。3年間の寮生活が終わり、私は大学へ進学しました。大学でも日本へ行きたいという思いはありました。そして私は最終試験に合格し、日本へ留学することができました。

日本に来たばかりの頃は、日本語や場所など何も分からず困りました。私の1番の心配は気温のことでした。なぜかというと、ラオスの4月はすごく蒸し暑く、日本の気温と違ったからです。しかし数ヶ月が経つと、少しずつ慣れてきました。日本語の勉強も、ひらがなに漢字や文法が加わってきて大変でした。私は留学がどんなに大変かよく分かりました。

難しく大変なことがたくさんありましたが、楽しいこともたくさんありました。例えば、日本のいろんな美しい場所に遊びに連れて行ってもらい、とても楽しかったです。ラオスでは、日本についてテレビで見たことが

ありましたが、実際にはどのような国か知りませんでした。

また、日本に来てから、自分の国と違うことがたくさんあることが分かりました。例えば、ラオスには海がなく、電車もまだありません。また、日本の教育や経済はラオスよりも良いと思いました。そして、日本人はよく時間を守ります。これはとても良いことだと思います。最初は私も時間を守ることは難しかったですが、頑張って時間を守るようにしました。

去年まで住んでいた東京では日本語の勉強だけでなく、いろいろな場所に出かけました。8月には短い間でしたがホームステイをしました。ホームステイ先のお母さんが日本の習慣、生活や料理などを教えてくれ、私が大好きなそばの作り方も教えてくれました。また、富士山にも登りに行きました。頂上まで登って、眺めを見ながら写真を撮りました。沼津高専も見えました。登っていた時はとても疲れました。それから、12月には楽しみにしていた雪が降りました。長野県へ雪を見に行き、友達と楽しく雪遊びをしました。そして4月になり、1年間の日本語学校が終わりました。この1年は、とても短く感じました。いつも一緒だった友達が全国の高専へ行き、離ればなれになってしまっていて悲しかったですが、沼津高専に来てから新しい友達ができました。沼津高専に行く時には東京の先生が心配して、高専までの行き方を教えてくれ、小田原駅まで送ってくれました。三島駅に着いてからは高専の先生が迎えにきてくれました。沼津高専の先生たちは親切で優しく、たくさん手助けをしてくれました。本当にありがとうございました。

私は沼津高専にきた最初の頃は慣れずに少し困りましたが、もう大丈夫だと思います。今は、日本語や授業がまだ難しく大変ですが頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

私の高専時代

私の高専時代と沼津高専の歴史

学校長 柳 下 福 藏

昭和37年（1962年）4月20日、今はなき金岡中学校の仮校舎で遅い入学式が挙行され、私の高専生活が始まりました。歩くと床のきしむ音が聞こえたおんぼろ木造校舎とは対照的に、新品の学生服、学帽、黒革靴をまとい、凛とした1期生の姿は沼津の街の新名物と当時の女子高生に囁かれていたようです。

初代の井形厚臣校長が核となり、深尾教務主事、木戸学生主事、国語の市川教官、歴史の朝比奈教官、数学の岡田教官、英語の野中教官、化学の渋谷教官、体育の三ツ井教官、地理の澤田教官、機械の大橋教官、事務部長の水谷さんが一体となって、日本の工業を興す未来の技術者を育成する使命に燃えていたことが先生方との会話の節々から感じとられ、教官と学生が「新しい学校を創る」という強い絆で結ばれていました。

井形校長は京都帝国大学の物理学科を卒業後、浜松高等工業（静岡大学の前身）の教官となり、校長の命で戦後の西ドイツに2年間留学し、帰国後、日本の工業を興すためには西ドイツで学んだ精密工学の教育が必須であることを痛感し、新制の静岡大学に精密工学科を創設されました。全学生にトットツとした口調で語る講話にたびたび登場した言葉、「ドイツのエンジニアはカーン・エネルギー（kühn energie、勇敢な闘志）を秘めている」「スポーツで身体を動かすことは勉強で疲れた頭をリフレッシュするのに大変有効です…」「人生意気に感ず…」などが懐かしく思い出されますが、本校の教育理念である井形校長の遺訓「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」は井形先生自身が目標としていたことであり、井形先生の人生そのものでは…？と、私は最近になって感じるようになりました。

私が最も得意とした教科は数学、物理であり、次が英語でした。数学は難しい応用問題を何日も考えてやっと解けた時の快感は何物にも代えがたいものでした。英語

は野中先生推薦のエスベルセンや山崎貞著の「英文法入門」を購入して独自で深夜まで読みふけりました。

聡明な朝比奈先生の歴史の講義は歯切れがよく、講義の中で語られる人生訓は感銘深いものがあり、人文地理の澤田先生は教科書をあまり使わず、自身が調べた最新の資料を教材として講義を進められました。40数年前に、「いずれ海水の淡水化が重要な問題になる時代が来る」ことを予測していた先見性には頭が下がる限りです。

国語の市川先生は前任地の葦山高校で学生指導に手腕を発揮し、「葦山の団ちゃん」の愛称で学生に親しまれていましたが、講義に対する熱意は素晴らしいものでした。私の心に残る言葉、「技術者には図太い神経とか細かい洞察力が必要である」「君は君、我は我なり、されど我は咲く（武者小路実篤）」「道程、僕の前に道はない僕の後ろに道はできる……（三好達治）」、夏目漱石の晩年の心境「則天去私（天に則り我を忘れる）」は青年期の学生に深い感銘を与えるものでした。高専の最初の国語の授業で作成した作文、「沼津高専に入学して」を市川先生が定年退官された年に「合縁機縁」の色紙とともに全卒業生に送付いただいたことが1期生の話題となり、ある友人からは「子供を正座させて読んで聞かせた」とのエピソードが伝わってきました。私は自身の15歳の時の作文を読み返し、意外としっかりした考えをもっていたこと、文章は歳をとったからといって上手になるものではないこと、を痛感したしだいです。

初代井形校長が市川先生に校歌の作詞を依頼された時、「市川君、沼津高専の校歌を君が作らなくて誰ができると思いますか…の言葉に感動してお引受けすることにした」という逸話を市川先生からお聞きしたのは、同窓会の創立20周年を記念して図書館前に校歌の歌碑を設置したときのことでした。

曲折はありましたが、高専教育が世に高く評価され、その目的が中堅技術者の育成から実践的・創造的技術者の育成に発展した成果は、設立当初の教職員方の強い意志が核となり築かれた賜物と思いを深めている昨今です。

沼津高専は平成24年に創立50周年を迎えます。

私の高専時代の寮

校長補佐（寮務主事） 遠 藤 良 樹

わたしは、電気工学科12期、1978年3月卒業生ですが、その当時の寮に関してお知らせいたします。

寮は多くの点でわたしが在寮していたころと変わっております。箇条書きしますと、

1. 棟が6棟（翔峰寮がなかった）。
2. 女子寮がない（現在の明峰寮は男子寮だった）。
3. 棟長が各棟1人（現在2人、当時は棟風紀を兼ねた棟長補佐がいた）。
4. 階長はすべて3年生以上。
5. 上級生寮は明峰寮と秀峰寮で3年生以上が入っていた。
6. 個室がない（4人部屋と2人部屋だった）。
7. 明峰は建物が今の半分以下の大きさ（西側部分のみだった）。
8. 寮務関係教官（当時は教官と言った）が4名ほど（現在15名）。
9. 各居室に電話がない（当然携帯電話などない）。
10. 寮生会の規模が小さい。
11. 入寮式が入学式の前日にある（入学式の前日に荷物搬入、1泊した）。
12. 寮務係職員が5名ほどいる（もう少し多かったかもしれない、そのうち寮母2名）。

などでしょうか。思い出すままに書きましたのでまだあるかもしれません。コンピュータネットワークがなかつ

たことは明白です。

補足説明をします。1は6と関係があります。居住改善のため個室を作り4人部屋をなくしたために1棟増えました。2は当時女子学生が非常に少なかったからです。わたしの同期では工業化学科（今の物質工学科）に1名の女子学生がいただけでした。全学年でも10名ほどでした。4は階長が1、2年生の階員を指導しておりました。7について当時明峰は役員寮と言われ、今の本部役員（各棟棟長を除く）全員が入っておりました。9ですが、保護者から20時～22時の間に寮生の呼び出しがありますと、電話当番と言われる寮生が放送で知らせ、呼び出された寮生は各棟玄関付近にある電話器をとり話をするというものでした。電話当番が交換手のようなことをしておりました。

変わらなかったこと、それは1、2年全寮制と1日3回の点呼でしょうか。全寮制は現在弾力的に運用されておりますので、唯一まったく変わっていないのは点呼と言えます。当時から寮生が点呼を行い宿直に報告するというシステムでした。点呼が寮生活の基本であり根幹であると言われる所以だと思います。これからも変わらな

いでしょう。時代とともに寮も少しずつ変化し、わたしが在校生のころから見ますと大きく変わっておりますが寮生会の質は確実に良くなったと思います。またこれが引継がれていることも沼津高専学生寮の誇るべきことと思います。よき伝統を守り時代変化に安易に迎合しない寮運営を行っていかれたらと思います。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

寮生会活動について

沼津高専寮生会

平成22年度沼津高専寮生会 寮長
田 中 弥

沼津高専寮生会では、学生寮を自治的に運営しています。毎日の点呼の管理、規則の決定・施行や催しごとの企画・運営など、寮を動かしていく上で必要な事柄はほぼ全て学生自身が行っています。また、寮を運営し寮生を指導することで、寮生の人格形成を手助けするのも寮生会の大きな目的です。集団生活を通し協調性や自立性を身に付け、寮生が将来「人柄のよい優秀な技術者」となって社会で活躍できるよう、日々の活動を進めています。

もちろん、新しく入ってきた寮生の生活指導も寮生会の重要な仕事です。寮という慣れない環境で新入生が戸惑うことがないように、階長と呼ばれる主に2年生が務める役員が中心となって、日常生活の細かいことまで教えていきます。例えば消灯や点呼などの生活時間から、洗濯の仕方や浴場の使い方など指導の内容は多岐にわたります。それに加え、沼津高専学生寮では寮生間の活発なあいさつが長く続けられてきました。このような良い伝統も寮の上級生から下級生へ伝えられます。彼らの活動のおかげで、夏の初め頃には新入生も立派な寮生として毎日を過ごしていけるようになりました。

寮での大きな出来事として、5月16日に寮祭が開催されました。ここでも寮生から集められたスタッフが活躍します。前夜祭の企画・運営から、当日のステージでの企画、装飾物の製作や交通整理、近隣への広報、模擬店や借用物の管理など、寮祭の全てが寮生の手で作られます。寮祭当日には近隣住民や寮生の保護者など

一般の方々も大勢参加していただき、開始以来49回目となる今年度の寮祭も大きな盛り上がりを見せました。

この寮祭以外にも寮では親睦会や夏祭りなどが催され、寮生が企画・運営し、寮生が寮生活を楽しめるよう工夫を凝らしています。

一方で、寮生会では、寮生の学習支援にも力を注いでいます。毎日20時から22時の間は学習時間と定められ、この時間は寮全体で机に向かい、学習に集中することとしています。また、マテカと呼ばれる活動がここ数年で活発化してきました。これは簡単に言えば、寮の上級生が下級生に向け授業をする活動です。高専では、授業の内容が独特なので、実際に経験を積んできた上級生からの授業は大変役立ちます。学習支援の活動は寮内にとどまらず、昨年度から近隣の長泉北中学校から声がかかり、寮生が中学生の勉強を手助けに行くという活動も始まりました。

また、寮生会では他高専の寮生との交流も積極的に行っています。毎年一関高専との交換寮生を実施したり、他高専生を招いて寮を見学してもらったり、逆にこちらから訪問したり、という活動を行っています。近年では全寮連と呼ばれる全国高専の寮生会の意見交換の場が設けられ、まだ参加校は少ないものの、全国高専の寮生会間での交流が活発化してきました。

以上のように、寮生会では寮生の指導、催しの企画・運営や学習支援、さらには他高専寮生会との交流などで様々な活動を行っています。そしてこれらは寮生が円滑で楽しい寮生活を送れるとともに、協調性・自立性を身に付けられるようにと寮生会が伝統的に続けてきた活動です。このような活動を続けていくことは非常に大変なものです。私はやりがいを感じています。私はこの寮生会をまとめる寮長として、これからも寮生が有意義な生活を送れるよう、尽力していきたいと思います。



学内プロコンについて

沼津高専におけるプロコンへの取り組み

総合情報センター 中 道 義 之

高等専門学校プログラミングコンテスト（高専プロコン）は、全国の高専学生が日頃のプログラミングの経験を生かして情報処理技術における優れたアイデアと実現力を競う大会です。すでに20年以上の歴史を持ち、その取り組みは教育界・産業界で高く評価されています。

本稿では沼津高専におけるプロコンへの取り組みを紹介します。

●第20回木更津大会へ出場

平成21年10月に行われた第20回木更津大会へは自由部門に1チーム、競技部門に1チームが出場しました。

自由部門では、手にはめて使うコンピュータへの入力装置「手袋型生活自立支援インターフェース」を出品しました。これは体が不自由な人でも手を動かすという簡単な動作で電気機器を制御することを可能にするシステムで、ワイヤレス化やアプリケーションの多様化等、多くの独創的な特徴を持っています。プレゼンテーション審査とデモンストレーション審査では、簡単な動作で様々な機器を操作できるだけでなく手話の指文字を使って文字入力・音声出力ができる等の実用的な機能が高く評価

され、優秀賞と東芝ソリューション特別賞を受賞しました。

競技部門では色を揃えるパズルに挑戦しました。惜しくも入賞は逃しましたが、独創的なアイデアを披露することができました。

●学内プロコンの開催

総合情報センター情報教育部門では、学生への高専プロコンの啓蒙・参加奨励を目的として学内プロコンを開催しています。平成22年1月に第2回学内プロコンを開催しました。競技部門・自由部門・学科別部門（機械・電気電子・制御情報）の各部門においてプログラミング技術やアイデアを競いました。

●プログラミング同好会の発足

プロコンに興味のある学生・教員有志が中心となってプログラミング同好会（文化サークル連合に所属）を発足させました。高専プロコンのみならずパソコン甲子園、Imagine Cup等のプロコンへも参加を目指しています。現在約20名が所属し、プログラミングセミナーや部内コンテストの実施など活発に活動しています。

沼津高専のプロコンへの取り組みの活性化ははじまったばかりです。今後とも活動へのご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。



全国プロコンの様子



学内プロコン実施中の風景

New MIRS 競技会の報告

New MIRS 発進！ ―障害を乗り越えて迷路を脱出せよ―

電子制御工学科 江上親宏

電子制御工学科では、システム開発教育の一環としてMIRS（ミルス）と呼ばれる小型自律移動ロボットの製作を4年次のカリキュラムに取り入れています。多岐にわたる知識と技術を応用し、工夫を凝らして仲間と共に1つのロボットを築き上げていくMIRS開発の授業は、3年生までに学習した全ての科目と実験の総決算と言っても過言ではありません。例年その成果発表の場となるMIRS競技会は、学科を挙げた一大イベントになっています。

20年以上にわたるD科MIRS開発教育の歴史を振り返りますと、1988～97年は相手の後尾に取り付けられたスイッチを早く押した方が勝者となる「対戦型競技」、1998～2008年は所定の時間内にフィールドに置かれたポストのスイッチを押してその獲得数を競う「オリエンタリング競技」が実施されてきました。また2008年には、当時の卒研10名の手によって、車体がひと回り大きく画像認識機能を搭載した新型のMIRSが誕生しました。私達はこの新しいロボットシステムのことを、MIRS Generation 3の略で「MG3」と呼んでいます。年度が明けて2009年、実際に教材としてMG3を取り入れて電子機械設計製作の授業がスタートしました。4年生の6チームが一年間をかけて挑む競技は、ズバリ「迷路の脱出」です！競技場となる「迷路」の設計・開発は江上研究室の卒研生であった勝又綾香さんと濱村功君が担当しました。

「迷路」は、ブロック（50×50cm）を1単位として10×10ブロック（5×5m）で構成され、走行ルートの途中には「ステップ（低い段差）」、「シーソー」、「ロータリー」、「小部屋（3×3ブロックの空間）」、「鍵と扉」といった難所がMIRSの行く手に待ち構えています。これらの各仕掛けには配点があり、クリアする毎に得点と

なります。今回、走行ルートの分岐点はT字のみとし、正面に画像認識機能で解読可能な左右2つの数字を組み合わせた紙「Direction Board」を設置し、それぞれの先にある仕掛けを判別できる仕組みになっています。各チーム、迷路のゴールを目標にたくさんのアイデアを出し合って、メカ、エレキ、ソフトの開発に取り組みました。競技会直前には、工作室で夜を徹して作業する学生の姿も見られました。

そしていよいよ迎えた2月5日（金）、第2体育館においてD科在校生や応援に駆けつけた専攻科生・教職員計200名以上が見守る中、2009年度MIRS競技会が開催されました。競技会実行委員長は長島周平君です。競技審査員には大島茂副校長、また学外からは沼津産業振興プラザの稲葉大典事務局長をお迎えしました。各班4分間のプレゼンテーションでオリジナルの機能について紹介した後、2回ずつ競技に挑みました。結果は惨憺たるもので、得点できたチームが1つもないという状況でした。しかし、この原因が無線LANに関するトラブルであったことが判明し、これを正してデモンストレーションに臨んだMIRS0901が見事ゴールまでたどり着き、優勝に輝きました。また審査員特別賞には、LEDなどを用いて表現した生物を思わせる外観が評価され、MIRS0904が選ばれました。

競技会を終えた4年生からは「迷路の脱出という競技は適切だった」、「開発意欲や学習意欲が高まった」という意見が大半を占めました。初めて観戦した1年生からも「難しそうだがぜひ挑戦したい」、「MIRS開発に向けて幅広い知識を身に付けなければいけない」との感想が多く寄せられ、新型MIRS・新競技は下級生に対してもモチベーションアップをもたらしたようです。

さて、今年度も新4年生が5つのチームに分かれてMIRSの開発に着手しています。「次の迷路は誰が作るの？」この答えは、電子制御工学科のホームページをご覧ください。次回のMIRS競技会は平成23年2月4日に開催が予定されています。ぜひ保護者やOBの皆様もご来場ください。電子制御工学科一同、心よりお待ちしております。



MIRS競技会の様子



学生が製作したMIRS

教育後援会から

ご挨拶

教育後援会長（C5） 芹澤 啓行

本年度会長に就任しました芹澤です。保護者の皆様の代表として、この大役を誠心誠意務めさせていただき所存でございます。これから1年間ご指導ご協力の程、よろしくお願いいたします。

後援会の目的・事業についてですが、総会資料の最後に会則がありますので、詳しくは述べませんが、記載されている事業を、柳下校長先生以下教職員の方々と話し合い、協議をしながら、学生にとって最善の方策を考えていきたいと思っています。

学校教育についてですが、役員として4年間を過ぎ感じる事は、まず、教育機関として目的・運営・質のバランスがいいという事と、校長先生以下、教職員の方々の意識が、1つの方向に向いている事です。優良な民間企業の社員のように目標意識が高く頼もしく思います。

さて、学生のみなさんに卒業するまでに学んでいただきたいことが4つあります。

まず第1に自分の価値判断をする時の「ものさし」をいくつも持ってもらいたいということです。例えば、100mを正確に測りたいからといってノギスでは測らないですね。理系的に言えば「有効数字」、文系的に言えば「TPO」でしょうか。自分が得意、知識があると言っても、物を判断する方法は無数にあり、また必ず最適な方法があるという事です。

第2に識別する為の「フィルター（ふるい）」をいくつも持ってもらいたいという事です。例えば、インター

ネットのレビューなどで自分とまったく正反対の意見や、誤った情報がさも正解であるかのように語られていることがしばしば見受けられます。理系的に言えば、検証が済んでもいない机上の伝説が現実を否定するような事です。物事は必ず反対から見た物が存在します。「絶対に儲かる」という事は、「絶対に損をする人」がいる事です。その中から有意義な情報を得るには、少なくとも「知識」「経験」の2つのフィルターが必要になるのだと思います。「経験」は社会に出てからが本番ですが……。第3に「苦勞をしろ」ということです。人は皆、怠惰の心を持っています。苦勞をするともっと楽な方法、正確な方法が無いか自分自身で考えます。これが、「物づくりの心」だからです。ここで、怠惰の心に負けずに踏ん張れば、すばらしい発想が生まれると信じています。苦勞をせずに楽な方法を考える事とは、全く違います。

そして第4に「協調性」を育ててほしいという事です。物づくりとは、物だけで成り立つものではありません。必ず組織があり、自分の役割があります。1人では限界がありますが、みんなが協力することができれば、すばらしい結果をもたらす事になります。この事は学生生活では十分に学べると思います。

学生の皆さん、プラス思考で、何か目標を見つけることが、幸せの第一歩だと思いますので、是非実行してみてください。きっといい結果が生まれると思います。自分自身が、最大の友であり、ライバルなのですから。

全人教育の沼津高専で学べる事はとても幸せなことです。常に努力し続けていただいている柳下校長先生以下教職員の皆様に感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

入学に際して保護者から

祝入学

機械工学科1年 保護者 五味 茂美

義務教育を終え、高専生としての5年間の、スタートしました。難関を突破して合格できたことを心から嬉しく思っております。

娘の入寮の支度をしている間も実感の湧かないまま送り出すことになり、15歳という年齢を思うと心配ばかりの毎日でした。また女子学生が少数なので、生活面や勉強面での不安もありましたが、上級生の方々に面倒を見て頂いたり、寮生活の中、短期間で友人関係を深めるこ

とができたようです。食事、入浴、居室の設備と、整った環境の中、不自由のない生活ではありますが、ルールに従った1日に慣れることに苦勞しているのではないかと心配していましたが、娘は親しく付き合える友人もすぐにでき、助けて頂くことばかりだと、言っておりました。休日には、外出したり、好きなマンガを思い切り読んだり、少しずつ寮生活に馴染んできたようです。

そもそも、娘が沼津高専を希望することになったきっかけは、オープンキャンパスと高専祭でした。

中学校の仲のよい友達数人と参加したのですが、緊張している中学生に上級生が親切で丁寧な対応をして下さり、また学生同士とても仲がよいのが印象に残りました。そして何ととっても活気溢れる高専祭です。男子学生達

の元気と熱気は衝撃的でしたし、各科の体験学習は、中学生にはとても興味深いものでした。

沼津高専は設備、環境にも恵まれ、また就職率100%と素晴らしい学校です。

高専生の1人として、誇りを持ち、目標に向かって努力してほしいと思っています。

寮生活、学校での勉強、友人関係、困難や壁に歩みが

高専入学に当たり願うこと

電気電子工学科1年 保護者 東 條 達 也

5月の連休に息子と並んで身長を比べたところ私とほぼ同じになっていました。入学前は私の方が3cm程高かったのですが、高専に入学してわずか1ヶ月で心も身体も大きく成長したように感じました。

「寮生活が嫌だから僕は高専を受験しない」と言い続けていた息子が高専を受験すると決めたのは昨年12月のことでした。

高専を受験する意志がある子なら当然参加すべき1日体験入学や公開講座といった行事にも息子はまったく参加せず、第1志望は公立高校の普通科でした。

高校普通科から大学入試を経験した私としては、一般入試で大学へ合格することの厳しさがわかっていましたので、卒業時に就職・大学編入・専攻科など選択肢が広い高専に息子が入れれば良いと考えていました。しかし、最終的に人生を左右する可能性のある志望校は本人に決めさせるのが1番良いとも考えていましたので、息子が高校は普通科に進みたいと言うならそれでも良いと思っていました。

息子に「普通科に入りその後どうするのか？大学に進むのか？大学は何学部に入りたいのか？将来どんな職業に就きたいのか？」という質問をしたことがありますが「高校卒業後は大学に進学したいが学部など具体的なことは決めていない」と答えたこと記憶しています。

そんな息子でしたから「進学校に進むとついていくの

止まりそうになることもあるかもしれません。そんな時こそ、失敗を恐れず、自分を見失うことなく、自ら求め、決して諦めないで下さい。苦しい時の一つひとつの努力や経験が、少しずつ確実に成長させてくれるでしょう。

5年間、しっかりと愛情を持って見守ってゆきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

が大変。優秀な子しか面倒見てくれない」といった高校普通科の噂？が非常に気になったのでしょう。その後高専について自分なりに調べていました。担任の先生にも相談し「君は高専が合うと思うよ」の一言が決め手になったようです。

高専受験を決めてから合格発表までは非常に長く感じました。一方、合格発表から入学・入寮式の日までは準備に追われたこともあり、あっという間でした。

中学卒業までの15年間、服を脱いだら脱ぎっぱなし、ご飯を食べたら食べっぱなしの生活を当たり前にしてきた息子が寮生活をうまくやっていけるのだろうかという不安はありました。反面1度外に出して掃除・洗濯などの大変さを経験させてみたいという気持ちもありました。入学後初めて帰宅した時に寮の生活は楽しい、友達もたくさんできた、洗濯は毎日しているなどと楽しそうに話す息子の姿を見て安心し、環境によっても人は変わるものだと思いました。

私は普段、人は何かをやらうとしたり、何かを頼まれたりした時に2つのタイプに分かれると思っています。出来ない理由を並べ立てそれをやらずに済まそうとすることに一生懸命になる人とどうやったらそれが出来るかを考え、出来る理由をみつけて即座に実行する人の2タイプです。前者の方が圧倒的に多いと思っていますが成功する人は後者です。

最後に5年間の学生生活では勉強・部活動など一生懸命頑張り、どうやったらそれが出来るかを常に考える前向きな技術者になって欲しいと願っています。

先生方、先輩方、同級生の皆様どうぞよろしくお願いします。

期待していること

物質工学科1年 保護者 伊 藤 和 正

入学式は生憎の雨模様でしたが、荷物を渡してくださった先輩方の明るい笑顔や挨拶に「皆優しいんだ」と感じ、安心しました。そして入学して1ヶ月が過ぎました。激変の1ヶ月だったと思います。連休に久々に戻ってきました。緊張から解放されてか、リラックスしているその姿は元の入学当時の様でしたが、洗濯等周りのことも全て自分でこなせるようになったり、今までと異なる勉強

だったりで中身は想像以上のスピードで入れ替わっている事でしょう。

いろいろ制限のある寮生活の厳しさが辛いと感じてしまうかもしれませんが、高専に入れた事を誇りに頑張ってください。寮祭にも訪問させてもらいましたが、先輩方や同学年生の活気溢れるパワーを感じ、また友達とユニフォームを着て頑張っている姿を見て楽しそうで高専に入れて本当に良かったと思っています。

また寮生活は通学時間が要らず、マテカ等のサポートもあり、勉強するには理想的な環境であると思います。先輩や同級生にどんどん質問して行って欲しいと思います。

教授から1日の勉強時間を2時間はキープする様に言われているとの事ですが、なかなか取れない様です。取れない中で時間を自分で作るにはと考えて自ら早起きして有効な時間を増やして行く事をさりげなく勧めてくれたのだと思います。また教授から、分からないときは解答を見ずに自分で答えを導き出すように言われたそうです。分からない事を考える事で脳内ネットワークがどんどん作られるので、とても意味のある事です。素晴らしい教授陣で安心です。何気ない一言でもとても重要な意味があるので漏らさず受け取って欲しいと思います。

私の納得している言葉で「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」というものがあります。これは月世界旅行を書いたジュール・ヴェルヌの言葉ですが、是非いろいろな夢を想像してそれを実現して行って欲しいです。その実現には現代科学の基礎から先端技術を学んで行く事が必要です。その技術や仲間とのコミュニケーションを取る事やチームワークも学べる高専は最高の所

です。様々な講座やプロジェクトを経験して是非日本の技術力を引っ張っていくリーダーになって欲しいです。社会に出ればもう世界が相手の競争です。私もアメリカやインド、中国の方々と仕事をしてきました。アメリカの方々は皆プレゼンテーションがとても上手です。ジョークなどから始まり雰囲気を作り引き込んでいかれます。対して日本人は「まじめ」と思われています。これは裏を返せば「つまらない」や「暗い」とも思われてしまう場合があります。日本ではちょっと前にはKYと言って空気を読めてない等と言っていましたが、国際社会ではあえて空気を読まない事が必要になってきます。むしろ空気を自分のモノに作っていく力が必要です。アメリカではプレゼンテーションやディベートを学生の時に多く経験している様です。高専でも仲間とディベートやプレゼンをどんどんやっていただき、世界を相手に活躍する人物に育って欲しいと思っています。

Anything is possible !

事務部から

平成22年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学を意志を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学

説明会は、午前と午後の2回実施します。

1日体験入学の内容は、各学科及び総合情報センターの実験、実習等の公開や学生寮、図書館その他の施設見学、学校説明会等です。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われまます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩・又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月16日（金）となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1日体験入学

記

1. 日 時 平成22年 7月31日(土) 9:00～15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容

(1) 進学説明会	(2) 進学相談コーナー
(3) 各学科・専攻科紹介	(4) 学内施設紹介
(5) 学生会企画及びクラブ紹介	(6) 学生寮食事体験
(7) その他	
4. 1日体験入学ホームページアドレス

http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/lecture.html

平成22年度(8月～3月)行事予定表

平成22年

8月	9日(月)	編入学試験
	14日(土)	全国高専体育大会 (15日まで)
	18日(水)	編入学試験合格発表 全国高専体育大会 (25日まで)
	21日(土)	中学生ロボコン静岡県大会
	23日(月)	全国高専将棋大会 (25日まで) 編入学予定学生説明会
	28日(土)	寮生リーダー研修 (30日まで)
9月	1日(水)	授業再開 防災訓練 (1・2時限) 専攻科前期試験 (14日まで)
	4日(土)	進学説明会 (小田原市)
	11日(土)	進学説明会 (島田市)
	12日(日)	進学説明会 (浜松市)
	15日(水)	専攻科外部単位認定申請 (17日まで)
	18日(土)	進学説明会 (静岡市)
	21日(火)	前期末試験 (28日まで) 専攻科前期終了
	27日(月)	専攻科後期授業開始 専攻科ガイダンス (10月1日まで)
	30日(木)	後期授業開始 月曜振替授業 専攻科前期修了式
10月	6日(水)	4年工場見学 (8日まで)
	10日(日)	ロボコン東海北陸地区大会
	15日(金)	2年特別研修
	21日(木)	体育祭・学生総会 進学説明会 (本校・教諭対象)
	23日(土)	1・2年TOEIC Bridgeテスト 3・4年TOEIC IPテスト
	27日(水)	1～4年文化講演会 (午後)
11月	5日(金)	高専祭準備 専攻科木曜振替授業
	6日(土)	高専祭・体験授業 (7日まで)
	7日(日)	東海地区高専ラグビー大会
	8日(月)	高専祭片付け
	15日(月)	授業参観・学科説明会 (19日まで)
	21日(日)	ロボコン全国大会
	24日(水)	1～4年中間試験 (30日まで)
	26日(金)	テクノフォーラム

12月	8日(水)	専攻科入学説明会 (予定)
	11日(土)	工学系数学統一試験 (4年生)
	15日(水)	3年課外教育特別講演
	23日(木)	留学生交流会 (25日まで)
	24日(金)	1・2時限授業 大掃除・諸注意
	27日(月)	冬季休業 (1月5日まで)

平成23年

1月	4日(火)	全国高専ラグビー大会 (5日まで)
	6日(木)	授業再開
	8日(土)	中部近畿地区高専将棋大会 (9日まで)
	9日(日)	全国高専ラグビー大会
	13日(木)	3年到達度試験 (数学・物理)
	15日(土)	専攻科研究発表会
	17日(月)	専攻科研究・学習発表会 (午後)
	18日(火)	専攻科研究・学習発表会 (午後)
	20日(木)	専攻科後期試験 (2月2日まで)
	23日(日)	推薦入試
2月	31日(月)	3年合宿研修 (2月2日まで)
	2日(水)	3年インターンシップ説明会
	3日(木)	専攻科外部単位認定申請 (7日まで) 3年生臨時休校
	4日(金)	5年学年末試験 (10日まで)
	8日(火)	合宿説明会 専攻科後期終了
	15日(火)	1～4年学年末試験 (22日まで)
	18日(金)	入試準備
	20日(日)	学力入試
	21日(月)	臨時休業・入試採点
	23日(水)	5年卒業研究 (3月2日まで)
	25日(金)	入学者選抜合格発表
3月	2日(水)	大掃除・終業式
	3日(木)	寮生リーダー研修 (5日まで) 5年卒業研究発表 (4日まで) 臨時休業 (17日まで) 入学説明会 (予定)
	9日(水)	5年卒業判定会議
	16日(水)	1～4学年進級判定会議
	19日(土)	卒業式・修了式
	22日(火)	学年末休業 (31日まで)